平成25年12月10日発行　毎月1回10日発行　第66巻第12号

日本消防

●第19回全国女性消防団員活性化ぎふ大会

消防団120年

12
2013

日本消防　CONTENTS

2013 12
Vol.66 No.12

表紙写真説明

「六角堂」

明治38年に岡倉天心が自ら設計したもので、五浦海岸の茨城大学五浦美術文化研究所内にあり、天心が読書と思索にふけった場所といわれています。緑の松林を背後に、前には太平洋の白波が砕け散るその雄大な姿は、訪れる人々に感銘を与えています。

平成23年の東日本大震災で流失しましたが、翌年４月に再建され、現在上映中の“天心“の舞台となっています。

消防団１２０年・自治体消防６５周年記念大会

平成２５年１１月２５日（月）　於　東京ドーム

巻頭言

「地域防災力の充実強化を目指して」

（公財）滋賀県消防協会　会長　植田　和生

滋賀県は、日本列島のほぼ中央に位置し、北は福井県、東は岐阜県、南東は三重県、西は京都府に接している「海」のない県です。面積は、国土の総面積の約１％を占めており、中央には県土の約６分の１を占める、我が国最大で最古の湖である「琵琶湖」があり、周囲を伊吹、鈴鹿、比良など1,000mを超える高い山々に囲まれ、琵琶湖の周辺は、これらの山々から流れ出る大小の河川が扇状地や三角州をつくりながら湖に注ぎ、近江盆地を形成している山紫水明の地であります。

近江南部は温暖な太平洋側気候、湖北は日本海側気候、湖東・東近江は内陸気候を示し、四季の変化に富んだ風景を時々刻々と映し出しています。

滋賀県では、未来志向、次世代育成型の社会の構築を目指す「未来を開く共生社会へ～人ともに　琵琶湖とともに～」を県政の基本理念に、自ら高い規範を持ち主体的に行動する自立性を高め、ともに協働することで、人と人、人と自然が共生する社会を築き、暮らしの未来、社会の未来を開くこととし、「住心地日本一の滋賀」を目指しています。

本年は、消防団120年・自治体消防65周年という記念すべき年にあたり、11月25日には、「消防　その愛と力」をテーマに東京ドームにおいて天皇陛下及び皇后陛下のご臨席を仰ぎ、厳粛な雰囲気の中、粛々と式典が進められ、また第２部や３部では、全国の消防団員等の活気あふれる演技などの熱演のもと、盛大に執り行われました。

当消防協会も昭和23年１月に財団法人として発足、平成25年４月に公益財団法人に移行しましたが、ちょうど65周年を迎えました。

これもひとえに「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛護の崇高な精神のもと、地域防災のために献身的な活動を行ってこられた消防職員や消防団員、県や市町村の消防に携わってこられた諸先輩方のご尽力、ご指導、ご協力のお陰であり、今日までのご労苦やご尽力に改めて感謝申し上げます。

本県には、19消防団があり、平成25年10月１日現在で9,219人（内女性165人）が活動しています。消防団員数は、本県においても全国的な傾向と同じく少し減少傾向にあり、平成24年４月１日と10年前の平成14年４月１日とを比較すると、消防団員数は9,388人から9,289人へと99人の減少、平均年齢は37.5歳から39.4歳へと1.9歳引き上がっておりますが、女性団員数は、117人から175人へと58人増加している状況にあります。

本県は、災害が少ない県だといわれてきましたが、平成24年８月の大津市南部豪雨災害に続き、本年９月の台風18号による豪雨災害におきましては、全国で初めて大雨特別警報が発令される中、累加雨量が600㎜を超える記録的な大雨となり、県内各地において全壊、半壊、床上浸水などの住家被害や土砂崩れ等が発生、一人が死亡するなど甚大な被害を及ぼしたところであります。

滋賀県では昭和59年の豪雪以来、29年ぶりに災害対策本部を設置するなどの対応に追われましたが、多数の消防団員や消防職員が、昼夜にわたり、巡視警戒パトロール、土嚢積み、避難誘導、被害者救助活動、排水業務や災害復旧などに従事をいたしました。

この度の豪雨災害に対する消防団員の取組や先の東日本大震災や全国各地で多発する大規模自然災害における消防団員の活動状況や任務遂行に対する思いを見聞きするにつけ、地域防災の要としての消防団の重要性を改めて痛感させられたところであります。

こうした自然災害の多発に加え、琵琶湖西岸断層帯地震や南海トラフ巨大地震の発生による影響などが危惧されている本県においては、地域防災力の要である消防団に寄せられる地域住民の期待は益々高まっております。

しかしながら、近年、消防団を取り巻く環境は、厳しさを増しており、就業構造の変化により会社勤めの団員が増加し、昼間の災害対応力の低下、少子高齢化や過疎化、地域コミュニティーの衰退、都市部への流出など、地域防災の中核をなす最前線に立つ消防団員のなり手そのものが減少するなど地域防災力の低下が危惧されており、時代に即した消防団作りへの取組が課題となっています。

一方、消防団の存在と役割をもう一度再確認しその重要性を見直す機運が生まれています。

そこで、以下の取組をより一層推進し、住民の信頼と期待に応えるために尽力して参りたいと考えています。

1　サラリーマン団員が大部分となり、少子・高齢化社会を迎えた現在、消防団に入団しやすく、また、活動しやすい環境の整備を図るべく、地域や企業、学校等の理解を得て、学生や女性、地方公務員、退団された消防団員や退任された消防職員の消防団活動への参加を促し、それぞれの立場で可能な活動を行う機能別団員を活用するなど地域防災力の強化を図ること。

2　大規模で広域での災害発生時には、交通網の寸断等により一時的に孤立し、公的支援が投入されるまで数日間かかる地域の発生が避けられません。特にこうした地域においては、住民一人ひとりが自分の身は自分で守る「自助」や地域住民や地域の企業等が支援しあう「共助」により、孤立した中でも命を救える手立てや援助が届くまで守り抜く住民意識の醸成や協働・協力体制の構築が必要であり、「自助」「共助」への意識付けや理解を深めるため、一般県民への防災思想の啓蒙普及に努めること。

3　地域住民の期待と信頼に応えるためには、消防団の重要な使命を再認識し、高い士気のもと、訓練を重ね、より精強な組織づくりに励むことも必要であり、消防学校における教育訓練への積極的な参加および若年団員を対象とした研修会や操法訓練への支援などにより一層の技能の向上や士気の高揚を図ること。

最後に、滋賀県消防協会といたしましては、地域の安全・安心を確保するため、消防団や他の消防関係機関との一層の連携を図るとともに地域防災力の要である消防団の一層の強化や処遇などの活動環境の改善を図るべく、日本消防協会や全国の消防協会との交流を密にして、地域防災力の充実強化に取り組んで行きたいと考えております。

日消の動き

「感謝！ 記念大会と消防団・地域防災の新法」

㈶日本消防協会　会長　秋本　敏文

平成25年11月25日、東京ドームでの消防団120年・自治体消防65周年の記念大会は、無事終了しました。この大会開催には、本当に多くの方々にご協力頂きました。皆さんのご協力がなければ大会開催は不可能だったでしょう。無事に大会が終わって、まず何よりも、ご協力頂いた多くの方々に心からお礼申し上げます。

全国から消防団員を中心に３万7,000人もの皆さんにご参加頂きました。団員の皆さんにはお仕事との関係などいろいろな問題があったでしょうが、多くの皆さんにご参加頂きました。東京ドームがびっしり超満員というのは凄い迫力です。ご来賓の皆さんもさすが消防だとびっくりしておられました。

消防団員、職員、婦人防火クラブ、幼少年消防クラブなど多くの皆さんに大会プログラムに出場して頂きましたが、それぞれ真剣にやって頂いて、会場の皆さんに大きな感動を与えて頂きました。伝統消防演技も、放水・救助・救急活動も、ラッパ演奏も、幼年鼓笛隊も、すべてが素晴らしく、このようなプログラムを用意して、皆さんに喜んで頂いて、本当によかったなあと思いました。

この大会については、各県の消防協会の役員、職員の方々に大変なご協力を頂きました。表舞台の影にあってがんばって頂いた方々、これは当日の受付とか進行準備とかの皆さんもそうですが、そのような方々のご協力がどんなに大事かということも痛感しました。

また、多くの消防応援団などの皆さんにもご協力頂きました。盛り沢山の内容の大会を３時間以上にわたって進行して頂いた徳光和夫さんと平野啓子さん、また独特の雰囲気でお心のこもったナレーションをして頂いた菅原文太さん、大ヒット曲「365歩のマーチ」の替歌までご了承頂き、最後に大きく場内全体を盛りあげて頂いた水前寺清子さん、素晴らしい歌で会場を魅了して頂いた布施明さん、AKB48の皆さん、いかにもママらしいごあいさつの小倉優子さん、「365歩」の振り付けをつくって頂きご指導頂いた劇団ふるきゃらの皆さん、消防団の歌の栗田けんじさん、皆さんにはお礼の言葉もないような感謝の気持ちです。

今回の大会は、全国消防長会と共催ですし、総務省消防庁の後援も頂きましたが、こうした方々には単に形式でなく、本当に実質的にご尽力頂きました。演出、会場設営、管理業務などは電通に委託しましたが、これまでに蓄積したノウハウをいかして全力を尽くしてくれました。所轄の消防署、警察署、東京ドームの方々にも勿論ご協力頂きました。最後に、日本消防協会職員も、長期にわたる準備段階から本番まで、よくやってくれました。

本当は最初に申し上げたかったのですが、天皇皇后両陛下にご臨席頂いたことは、言葉にならない感激でした。ご退席の時の会場全体からの大きな拍手が何よりもそのことを示しています。

資金面のご援助など応援して頂いた方もおられます。ご協力頂いたすべての皆さんに本当に心から深く感謝申しあげます。それだけに、この大会は次の新たな発展に結びつけなければならないと思っています。

もうひとつ、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の成立についても、関係の方々のご尽力に深く感謝申しあげます。阪神淡路大震災の時も同じ思いをもちましたが、特に東日本大震災の経験から、これからの消防防災体制のあり方として、消防団が中心となって、一般住民の皆さんまで幅広く参加する地域総合防災力の強化をめざすべきであること、そのためにも消防団の装備の改善などを早急に進める必要があることを述べ、これらを推進するため、新しい法律を制定すべきであるという意見を日本消防協会として決定し、関係方面に要請しました。これは、平成24年２月の役員会で決定しましたが、その後、目立った動きがないまま１年以上が経過しました。なかなか難しいものだと思っていたところ、今年夏頃から、自民党消防議員連盟でご検討が開始され、私の方からもお願いしたりしているうちに、ドンドン話が進んで、臨時国会終盤のあわただしいなか、皆さんのご協力で無事可決成立しました。議員立法という形でしたので、法案のとりまとめや成立に向けてのご協議など、多くの国会議員の方々にご尽力頂きました。本当にありがたく、深く感謝申しあげます。その内容のうち直接消防団に関係するものをいくつか記しますと、次のようなものですが、消防団が不可欠のものであることを明記するなど、日本の消防法制史において画期的なものであると思います。問題はこの法律をどういかして、消防団の装備の改善等を進めていくかです。みんなで力を合わせて、多くの方々のご理解ご支援を頂きながら、これを新たな発展に結びつけなければなりません。

記念大会の「消防未来宣言」にうたった消防関係者の決意を根底に、新しい法律をいかすこと、このことを新たなスタート台にしなければなりません。

(新法のうち直接消防団に関わる事項)

○　消防団が地域防災力の中核として欠くことができない存在であること、その抜本的な強化（８条)。団員確保のための措置（９条～12条)。

○　処遇（13条)、装備（14条、15条)、教育訓練（16条）の改善。国等の措置（15条等)。

○　自主防災組織、女性、少年などの教育訓練における消防団の指導的役割のための市町村の措置（18条)、国等の援助（20条)。

～第19回全国女性消防団員活性化ぎふ大会を開催～

㈶日本消防協会

平成25年10月30日（水）、第19回全国女性消防団員活性化ぎふ大会が岐阜県高山市「飛騨・世界生活文化センター」において盛大に開催され、全国から約2,700名の女性消防団員等関係者の方々が参加されました。

今大会は、「伝統を守り、未来を拓く　われら女性消防団」をテーマに、全国女性消防団員が一堂に会し、日頃の消防団活動や取り組みについての発表や地域をこえた情報交換が行われ、女性消防団員の活気ある大会となりました。

大　会　要　項

1	大会名称	第19回全国女性消防団員活性化ぎふ大会
2	開催日	平成25年10月30日(水)～31日(木)
3	大会会場	大　　会「飛騨・世界生活文化センター」 情報交流会「ひだホテルプラザ」
4	主　　催	消防庁 財団法人　日本消防協会 一般財団法人　岐阜県消防協会 第19回全国女性消防団員活性化ぎふ大会実行委員会
5	共　　催	岐阜県高山市
6	後　　援	岐阜県市長会　岐阜県町村会 岐阜県消防長会

大会スケジュール

◎　大会「飛騨・世界生活文化センター」

10：30～11：25	開会式
11：25～12：20	活動事例発表（４団体）
12：20～13：20	アトラクション 「上宝一重ケ根　鶏芸」 「八幡祭　獅子舞」
13：20～14：50	火災予防啓発劇（４団体）
15：00～15：50	記念講演「女優・歌手　清水ミチコ　氏」
16：00～16：25	閉会式

◎　情報交流会「ひだホテルプラザ」

18：00～19：30

オープニングセレモニー

飛騨の祝い唄「めでた」

開　　会　　式

高山市の伝統芸能である鶏芸の先導による大会旗入場

郡上市消防団　酒井　ひとみさんによる開会宣言

あ　い　さ　つ

主催者挨拶　消防庁　武田審議官

主催者挨拶　日本消防協会　秋本会長

主催者挨拶　岐阜県消防協会　尾石会長

開催地市長挨拶　高山市　國島市長

来賓祝辞　岐阜県　古田知事

活動事例発表

愛媛県今治市消防団
眞部和江さん
「今治市消防団　女性部カラーガード隊」

埼玉県川越市消防団
齋藤由香さん
「女性消防団活動の足跡と絆」

大阪府枚方市消防団
福川妃路子さん
「笑いのなでしこ！枚方市消防団女性分団」

佐賀県伊万里市消防団
宮﨑紀子さん
「女性消防団、今日までそして明日から」

アトラクション

八幡祭「獅子舞」

火災予防啓発劇

火災予防啓発劇は、全国から選ばれた4団体が発表しました。それぞれ趣向を凝らした啓発効果の高いものでありました。

岐阜県飛騨市消防団「おれさまはカジノモト　私たちの防火教室」

親しみやすい動物のキャラクターを取り入れ、万が一火災に巻き込まれたときの身の安全の確保を知ってもらい、子供も含め家族にも火災予防を伝える内容となっていました。

茨城県阿見町消防団 「子供向けの防火・防災教育」

子供達に大人気の「あみぱんちゃん」が、地震や火災に遭遇したときの対応を女性消防団員さんの説明とともに「ストップ　ドロップ　アンド　ロール」等の内容を盛り込み、子供達へ伝える内容になっていました。

宮崎県日南市消防団 「避難訓練～災害に備え大切な命を守りましょう」

防災に無関心で頑固な父親が地震に遭遇することによって、日頃から訓練に参加することで災害に備える大切さを伝える内容となっていました。

福岡県北九州市若松消防団 「いま一度、気持ち引き締め　火の用心！」

劇中の生活場面で火災予防のポイントを指摘するとともに、寝たばこによる火災を住宅用火災警報器のおかげでいち早く知ることができ、被害を最小限にとどめることで、住宅用火災警報器の設置普及を伝える内容となっていました。

記　念　講　演

記念講演では、TV、CM、ラジオ等でご活躍の清水ミチコ様と、岐阜放送の伊藤伸久様とのフリートーク、その後、高山市出身の清水様ならではの、地元の話を盛り込んだ軽快なトークとピアノ演奏をしながらのものまねは会場を楽しい雰囲気に変え、会場にお集まりになられた皆様に元気を与えていました。

閉　　会　　式

多治見市消防団　河合あずささんによる大会宣言

中津川市消防団　白石幸子さんによるお礼の言葉

大会旗引き継ぎ

次回大会開催地千葉県消防協会　石橋会長挨拶

下呂市消防団　沼田ゆかりさんによる閉会宣言

司会を務められた高山市消防団　西こずえさん

会場内の各コーナー

全国の女性消防団員の活動を紹介するコーナー

その他、会場には全国の女性消防団のPRコーナー、岐阜県物産品販売、グルメコーナー、日消グッズ販売コーナー、岐阜県PRコーナーなどを設けました。各コーナーには、大勢の人が集まり大盛況でした。

大会会場周辺路上での地元消防団員による歓迎

情　報　交　流　会

活性化大会終了の情報交流会では、約1,500人の方々が参加し、地域を越えた情報交流が行われ、大いに盛り上がりました。

鏡　開　き

消防団応援歌「三百六十五歩のマーチ」

郡上踊り

万歳三唱

次回開催
第 20 回全国女性消防団員活性化
ちば大会

平成26年11月14日（金）
舞浜アンフィシアター
（浦安市　東京ディズニーリゾート内）

―― 特別表彰「まとい」を受章して ――

「安心・安全なまち」をめざして

福岡市博多消防団　団長　譽田　耕一

1　はじめに

平成25年２月26日に開催されました「第65回日本消防協会定例表彰式」におきまして、消防団として最高の栄誉となります特別表彰「まとい」を拝受いたしました。

全国約2,300消防団の中から、福岡市博多消防団がこの栄誉ある表彰を受章できましたことは、消防団に携わるものとして、この上ない喜びであり、誇りとするところであります。

これもひとえに、地域住民の皆様の日頃からの消防団に対するご理解とご協力、日本消防協会、福岡県消防協会並びに消防関係各位のご支援・ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

また、市民の安心安全を守るため、私ども消防団の歴史を築いてこられた先輩諸氏はじめ、日夜消防活動に邁進する団員の皆さんと、その活動を陰で支えられてこられましたご家族の皆様にも重ねて深く感謝申し上げます。

2　福岡市の紹介

福岡市は福岡県北西部、面積341.70㎢、人口約150万人、北は九州北部の玄界灘に臨み、南は背振山地に囲まれた半月型の福岡平野の中心に位置しています。

明治22年の市制施行以来30の近隣市町村が合併し、昭和47年に政令指定都市、行政区の再編を行い現行の７行政区制となり、市制施行当時の約66倍の市域となりました。

国内外から多くの人々が訪れ、西日本の政治・経済・文化の中心として、また、アジアの交流拠点都市として年々発展を続けており「住みたい、行きたい、働きたい、アジアの交流拠点都市・福岡」をめざして都市づくりに取り組んでいます。

特に博多区は、歴史と伝統のある文化財や名所旧跡も多く、博多祇園山笠などの祭りが地域のなかに息づいている街であり、「博多駅」「博多港」「福岡空港」という交通拠点をかかえる、福岡市の陸・海・空の玄関口として重要な機能を果たしている街でもあります。

また、平成26年のNHK大河ドラマは、福岡藩の藩祖である黒田官兵衛を主人公とする「軍師官兵衛」に決定しており、福岡市でもこの話題でおおいに盛り上がっています。

3　福岡市博多消防団の沿革

福岡市には消防団が７消防団（７団64分団、定員2,602名）あり、博多消防団は博多区を管轄し、現在、１団本部14分団、実員481人（女性消防団員51名）で構成されています。

博多における防火制度は古く、天正15年（1587年）豊臣秀吉が九州遠征の帰途、博多の町を復興した際の「出火附火等の禁制」から始まっています。

昭和22年「消防団令」の公布により、福岡市内に４消防団が設置され、博多地区は福岡市消防団となり、昭和25年に中央消防団に改編、昭和61年には新たに博多消防団として新設され、現在に至っています。

4　福岡市博多消防団の活動

博多消防団は、火災による消火活動をはじめ、風水害、震災時等の災害活動はもとより、年間を通した定期的な訓練や教養に加え、航空機火災防ぎょ訓練やテロ対策訓練など他の防災機関との連携訓練にも積極的に取り組んでいます。

その他、本年度の主な活動といたしましては、次のようなものがあります。

日本消防協会定例表彰式

平成８年　ガルーダインドネシア航空機事故

女性消防操法大会

⑴　女性消防訓練

女性消防団員は、日頃より救命講習や高齢者防火訪問など、地域に密着した活動を実施しております。

平成25年９月には、女性消防隊の消防技術向上と士気の高揚を図ることを目的に、第1回福岡県女性消防操法大会が実施されたことから、福岡市の代表として博多消防団女性消防隊が初出場いたしました。

⑵　消防伝統技術

消防の伝統や文化を引き継ぎ、まちを守る心意気を伝えることは、消防団の大切な役割です。博多消防団では、消防はしご乗り・まとい・太鼓や木遣りの消防伝統技術を定期的に訓練し、消防出初式や各種イベントなどで披露しながら防火防災の広報活動を積極的に行っています。

特に、消防はしご乗りでは、毎年はしごの製作から演技指導まで長い準備期間を掛けて、消防伝統技術の継承と消防団の心意気を広く伝えるように努めています。

⑶　消防少年団

子どもたちの健全育成と、将来的な地域防災の担い手としての育成を目的に、福岡市内の消防団ごとに消防少年団が結成され、博多消防団では３地区隊（90名）が活動しており、小学生（４～６年生）に対して消防職員と連携し、防

消防出初式はしご乗り演技

火防災に関する知識・技術の育成活動を行っています。

今年の夏は、福岡市消防学校で１泊２日の「避難所生活体験」を開催したところ、子どもたちは日頃からの防災意識の大切さを実感していました。

５　おわりに

東日本大震災や九州北部豪雨災害など、近年、全国各地で自然災害が多発しており、今後も大地震・台風・局地的豪雨など、予測を超える被害が発生する災害も予想されるなか、ますます地域住民の消防に寄せる期待は大きくなっています。

私どももこの度の受章を契機としまして、これまで先輩諸氏が築いてこられました伝統を引き継ぎ、「安心・安全なまち」をめざし、決意も新たに住民の生命、身体、財産を守るという崇高な使命達成に邁進する覚悟でございます。

最後になりましたが、この受章にあたり格別のご高配を賜りました各関係者の皆様の更なるご発展とご活躍を祈念いたしまして、受章のご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

小型ポンプ操法大会

「地域の消防・防災リーダー」であるために

鉾田市消防団　団長　米川　宗司

1　鉾田市の紹介

鉾田市は、茨城県鹿行エリアの最北部から中央部にかけて位置し、県都水戸市、筑波研究学園都市、鹿島港まではいずれも30km圏内、首都東京まで90km圏内にあります。

東の鹿島灘に沿って位置する鉾田市は、北は涸沼、南は北浦に接し、その内陸部のほとんどは平坦地となっており、市内を流れる巴川や鉾田川、大谷川などの河川流域には水田が広がり、鹿島灘沿いには鹿島台地の丘陵部が形成されています。気候は、年間を通じて寒暖の差が小さく、海洋性気候により恵まれた過ごしやすい温暖な土地といえます。この平坦な地形と温和な気候を活かした農業が基幹産業であり、首都圏全体の食料供給地域として、また、メロン、イチゴ、スイカなどの果実や、トマト、甘藷（さつまいも）といった野菜の栽培でも全国有数の生産地となっています。

啓蒙活動

消火訓練

2　鉾田市消防団の概要

鉾田市消防団は、平成17年10月11日の市町村合併（旭村、鉾田町、大洋村）に伴い、鉾田市旭消防団、鉾田市鉾田消防団、鉾田市大洋消防団の３消防団となった組織を平成19年に統合、県内でも有数の団員を誇る消防団として発足しました。消防団組織は３支団82分団で構成され、平成25年４年１日現在では女性消防団員25名を含む1370名

で活動をしています。

消防車両等の装備については司令車３台、水槽付消防ポンプ自動車５台、消防ポンプ自動車33台、可搬式小型ポンプ車48台を配備し、防災活動や消火活動に従事しています。

3　鉾田市消防団の活動

鉾田市消防団の主な活動として、小学校区を中心とした防災訓練では、地元消防分団による消火訓練、児童による避難訓練、初期消火訓練、起震車やスモークマシンによる災害体験などを学校や地域と行い、地元に密着した防災意識の向上に取り組んでいます。また、機械器具の定期点検や夜警による火災予防、火災予防運動などの広報活動、各地域で行われる行事やイベントでの警戒、火災予防巡回点検として戸別訪問など、地域に密着した活動を行うことによって、地元住民から、消防・防災の中心的な存在として期待されています。

夏季訓練においては、規律訓練や中継訓練を行い、消防力・技能向上につとめており、さらに多数の団員が普通救命講習を受講し、応急手当の技術を身に着けています。また、ポンプ操法大会に向けて、ポンプ操法訓練を実施し、資質向上に努めているところです。

さらに、女性消防団員は、応急手当普及員の講習を受講し、住民に対する救命講習や啓発活動に取り組んでいます。

平成23年に発生した東日本大震災においては、震度６強を記録しながらも、地域住民の安否確認や被害確認のため全消防分団が市内巡回にあたり、危険個所の把握や応急復旧活動を行うなど、積極果敢な活動を実施しました。近年の大型台風の被害においては土砂災害への警戒や避難呼びかけ、浸水箇所の応急活動を積極的に行っており、消防機関や行政機関と連携し、住民を支える活動のリーダーとして役割を果たしています。

操法地区大会

4　おわりに

鉾田市の消防団員は、地域の安心･安全のため、歴代の消防団員が築き上げた信頼と献身的かつ奉仕的な活動により、地域の消防・防災リーダーとして地域における重要な役割を果たしています。また、災害対応はもとより地域コミュニティの維持及び振興も果たすべき役割と捉え、常に地域住民から期待される存在でありたいと考えています。

地区大会優勝

「団と常備は車の両輪」

柏市消防団　団長　小田山　博史

1　柏市の紹介

柏市は利根川を挟み北は茨城県との境に位置し、東は我孫子市との境に手賀沼が広がる東西約18㎞、南北約15㎞、面積は約114.9㎢、世帯数168,144世帯、人口406,603人（平成25年11月１日現在）となっております。鉄道はJR常磐線快速、東京メトロ千代田線乗り入れの各駅停車、東武野田線さらにはつくばエクスプレスが通っております。道路は国道６号線、埼玉、千葉へつながる国道16号線が市内中心部で交差し常磐自動車道柏ICを有し交通の要衝となっております。

昭和30年代中頃より東京のベッドタウンとして開け、柏駅をはさみ高島屋、そごうのデパートが立ち並び商業の街としても発展を続けてきております。つくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅周辺に東京大学柏キャンパス、千葉大学、国立がんセンター東病院等があり産学官一体での街づくりも進んでおります。

2　柏市消防団の概要

柏市消防団は昭和29年に発足、平成17年に沼南町と合併、団本部、５方面隊、42分団　団員数617名（充足率100%）で構成され、ポンプ車19台小型動力付積載車23台を配備し防火防災活動に励んでおります。又、来年度から新たに女性消防団員14名を採用し、より市民に親しまれる消防団を目指すとともに、高齢者や婦人に対し火災予防や救命講習等々女性の視点で活動して頂けるものと期待しています。

3　消防団の活動

柏市消防団は、常に地域の防災リーダーとして安全安心を担う役割を全うすべく訓練を重ねております。

４月には、春季訓練として規律、統制を重点とした基本訓練に始まり、操法講習会、５月に近隣の我孫子市と共催の水防演習、６月に柏市消防操法大会、11月に秋季訓練として各個訓練、小隊訓練、分

あけぼの山公園

列行進等の訓練。３月に中継放水訓練、資機材使用訓練等を全団員対象に行っております。さらに、各方面隊ごとに放水訓練、救護訓練を実施。また、地域行事や祭事に率先して交通整理や警備に出動し地域住民からの信頼を得ております。

地域の救急救命活動の充実と救命率向上を目指し、平成22年４月に団員による「救命サポート隊」を結成。普通救命講習会の講師として179名の団員が定期講習会等で活動を行っております。

又、年末年始には住民の火災予防思想の高揚、啓発を目的に消防車両で赤色灯の点灯警鐘をしながら巡回広報、水利に支障をきたす駐車車両への注意喚起を促しております。

救急フェスタ救命サポート隊による講習

4　終わりに

柏市消防団の日頃の心がけとして「団と常備は車の両輪」という事を常々言っております。

都市化が進み地域住民からは「常備消防があるのだから消防団なんか必要ないでしょう。」という言葉が多々聞こえてきます。確かに火災現場等、常備消防の後方支援活動が消防団員の大きな役割でありますが、火災の規模等によっては消防団員が放水を行い、また、残火処理や常備が撤収した後の監視や警戒を団員が行っている事を知らない方がほとんどです。しかし、消防団員がいなければ中継送水が出来なかったり、類焼を食止めたりする事があるわけで団と常備が協力しあってこそ、防火防災が可能であると考えます。

柏市消防操法大会

我々、柏市消防団としてはいざという時の対応をスムーズに行うには日頃から常備消防との意思疎通をはかり、お互い協力することをモットーにこれからも地域住民の「安全・安心住みよい街　柏」を目指して努力を続けてまいる所存です。

女性消防団員募集ポスター

「安全なまちづくり」に向けて

知多市消防団　団長　泉　章人

1　知多市の紹介

知多市は、愛知県知多半島の北西部に位置し、西は伊勢湾に面し、全体として平坦な土地で、四季を通じて比較的温暖な気候に恵まれた住みやすい街です。昭和34年の伊勢湾台風を契機として始められた名古屋南部臨海工業地帯の埋め立てにより大企業が進出し、今では日本有数のエネルギー供給基地として大きく変貌してきました。

女性消防団員による火災予防啓発活動

内陸部の佐布里池周辺は、県内随一の梅の名所として知られ、毎年開催される佐布里池梅まつりでは、多くの観光客でにぎわいをみせています。海岸部には、人工海浜「ブルーサンビーチ」があり、ウインドサーフィンのメッカとなっています。そのほか、尾張万歳や朝倉の梯子獅子などが広く知られています。

消火器取扱訓練

2　知多市消防団の紹介

知多市消防団は、知多市の前身である八幡、岡田、旭にそれぞれ消防団が結成され、昭和34年、知多町消防団として統合結団、昭和45年に市制施行に伴い知多市消防団となりました。

現在は団長１名、副団長２名、５地区の分団で構成されており、

消防団員128名のうち女性消防団員が12名となっています。消防車両は各分団に２台、計10台を配置し、火災や地震など有事に備えています。

3　知多市消防団の活動紹介

年間を通じて、消防出初式、観閲式、団員訓練、消防操法大会、年末夜警などさまざまな行事や活動を行っています。特にポンプ車操法には力を入れており、過去５年間で愛知県消防操法大会の成績は優勝３回、準優勝１回という輝かしい成績を収めることができ、県内でも注目される消防団に成長することができました。

ポンプ車操法

平成18年には、「自分たちの街は自分たちで守る郷土愛護」の精神で集まった、元消防団員のボランティア組織で構成された消防団防災支援隊を発足いたしました。活動は消防団長の要請により各分団詰所に参集し、分団長の指示のもと、消防団員として培った知識、技術や経験を活かし被害の軽減にあたります。現在は74名が登録されており、さまざまな活動を行っています。

東日本大震災以降、消防活動が迅速かつ円滑に行えるよう相互の連携強化を図るため消防署、消防団、消防団防災支援隊合同訓練を実施し、大規模災害時等の有事に備えています。そのほか、地区の防災訓練、祭礼警備、警察と合同で特別警戒など、地域に根ざした活動もしています。

4　おわりに

東北地方を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災の教訓を踏まえ、今後発生が懸念されている南海トラフ巨大地震などの大規模災害、近年頻発する集中豪雨による土砂災害、竜巻などの自然災害に的確に対応するため、優れた動員力及び即時対応力にさらに磨きをかけ、我々消防団員一同、郷土愛護の精神に基づき「安全なまちづくり」に尽くしてまいります。

佐布里梅まつり：梅子

シンフォニー（山梨県）

「高齢者との交流が大事」

南アルプス市消防団　甲西分団第５部　団員
新津　美江

１　南アルプス市の概要

南アルプス市は、平成15年４月１日、それまでの八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の６つの町村の合併により誕生した市で、総面積は264.07㎢、世帯数は25,953戸、人口は73,898人となっています。（市勢要覧より）

水はけの良い土壌を生かして桃やサクランボ、スモモやブドウなどの果樹園を形成し、さらに、扇状地の扇端部分では、米やトマト栽培なども盛んに行っております。

２　消防団入団

南アルプス市消防団は、現在は６分団46部、団員737人（定数800人）で、本団は団長、副団長で構成され、分団は分団長、副分団長、部長、団員から構成されており、ポンプ車38台を有し、地域住民の生命及び財産を守るために懸命に活動しています。

私はその南アルプス市消防団の甲西分団第５部に所属しています。

私が消防団に入団したのは、私の友人たちとの現代風井戸端会議「近所おしゃべり隊」でのつきあいがきっかけで、その仲間たちとともに入団しました。

「近所おしゃべり隊」の話すことはいつも近所の出来事で、お茶を飲みながら、「あこのお婆さん、寝こんだっちゅうよ。」、「いよいよ、あぶねーかも知れんね。」、「あこの息子の嫁、ぼこ（赤ちゃん）が生まれたっちゅうーよ。」、「ほんじゃー、お祝いやらねー。」、「いくらやる。」など地域のいろんな情報を聞いたり喋ったりしている「井戸端会議おばさん」たちです。私の年齢も既に還暦を過ぎていますが、地域のことは若い女性や男性たちより、誰よりも知っているつもりです。仲間の女性たちも同じくらいの年齢ですがやはり地域に関心があるみたいでした。そんなことから、主人も「ほんなに近所のことに関心があるじゃー、消防団にでも入って見回りでもしろ、ほして教せーてやれ！」なんて言われ、おしゃべり隊で「それじゃー」ということで入団した訳であります。

いざ、消防団に入ると、若い団員で息子みたいな人たちが一生懸命に水出し訓練や、消防車で地域を巡回するなど、キビキビと活動している姿を見てびっくりしました。部長、班長さんから様々な指示がだされ、その指示に従い機敏に動いている姿は「えらいなー…。」、「すごいじゃん…。」などの言葉しかでませんでした。また、息子と同じ年くらいの団員が「はい」と行って所定の作業を

行うのを見ていると、なんか「うれしいような」、「自分も頑張らないと」という気持ちになりました。

部長から「おばちゃん、車庫の中掃除をして！」と言われ、掃除したら、いろんな道具などがあり、「こりゃーなんずら、何につかうずらか」と思い片付けていると、「おばちゃん、それは防火水槽の蓋を開ける道具だよ。」、「こっちはホースを巻く機械、こっちは照明用の三脚だよ。」などと言われ、「へー…」と皆でただ聞いているばかりでした。消防団詰所にもいろんな道具があり「ちんぷんかんぷん」でした。私たちも一度に覚えるのは無理なので、一つひとつ教えてもらい覚えています。

3　女性団員の活動

さて、私たち女性団員も地域の巡回に参加し、火災予防の呼掛けや一人暮らし高齢者の防火診断などを行いました。

一人暮らしの高齢者宅は様々な環境の人たちがいて、中を見せてくれない人や、門前払いする住民も少なくありませんでした。そんな中、部長が「こんにちは、消防団ですよ。防火診断に伺いました。」と声を掛けると、家の中からおばあちゃんが出て来て「ご苦労様、私は一人だから、なかなか片付けが出来なくて」と言いながら。中に案内してくれました。85歳のおばあちゃんはそのお年にはとても見えず元気でしっかりした口調で対応してくれました。「消火器はお勝手の下にあるからみてくりょうし。」などと言われ、我々女性団員で確認しに行きました。幸い期限も切れてなく、ガス周りも非常に綺麗にしていました。家の周りの防火診断の調査も終わるころおばあちゃんがお茶を入れてくれ、世間話がはじまり、日頃一人なのでなかなか人と話し会う機会が無いんだなと感じました。「女性の消防団員さんかね、ありがとうございますね。」などと言われ少しうれしかったです。おいしいお茶とお新香を頂き、その後の高齢者のお宅へ行くのが遅くなってしまいました。

高齢者の家庭を訪問し、一人暮らしの高齢者が寂しい思いをしている一方で、常に回りに迷惑を掛けないようしっかり身の回りの整理をしており、自分の家から火事を出さないよう人一倍気配りしているようにも感じました。

私たち女性消防団員は地域に必ず必要だと思います。高齢者の方など若い男性が行くよりは私たちが行くほうが話しやすいこともありますし、話し相手になれるメリットもあると思います。本市の消防団でも、私たちだけでなくもっと女性消防団員が増えれば地域の活性化に繋がり、安心安全な街になると確信いたしました。

私は他のメンバーと一緒に、まだまだこれからも地域の巡回をして高齢者と友達感覚で接して行きたいと思います。

4　これからの思い

それから、消防団活動に携わっていると、東日本大震災においてお亡くなりになりました消防団員の方々に思いを馳せます。心からご冥福をお祈りいたします。

現在、消防団員の確保が非常に厳しいと聞いています。日中、地域にいる男性は、年寄りか自営業の方しかいません。ほとんどの方が周辺の都市に働きに出掛けているのが実情です。

こんな時こそ地域を守るのは、日中地域にいる我々女性たち、また私たちの世代の女性かもしれません、いざ有事の際は何ができるかわかりませんが、私たち女性団員に何ができるかを皆で考え、これから地域に貢献したいと思います。自分の地域は自分で守ることを再認識し、地域の安心安全に頑張りたいと思います。

男性には負けません…。まだまだ。

シンフォニー（高知県）
「新時代に対応できる女性団員として地域と共に歩んで行く!」

高幡消防組合　須崎消防団　須崎分団　団員
星野　公美

私たちの住む高知県須崎市は沢山の自然が残る中、新鮮な魚や野菜、鍋焼きラーメンなどのご当地グルメも満載で人気急上昇中のゆるキャラ、かわうそのしんじょう君も居て、住む人も暖かくこの須崎市へ移り住みたいと思う方たちも最近増えて来ている、来て楽しい住んで楽しいとっても良い所なんです。

私はそんな、生まれ育った須崎が大好きです！入団して早４年が経ちました。

消防団に入るきっかけとなったのは知人の消防団員さんからのお誘いでした。

それまでは、女性消防団員の存在すら知らなかったので、どんな事をするのか疑問でしたが、日頃から地域の為に自分が何か出来る事はないかと考えていたので、この消防団活動で役に立てるのではないかと思い、入団を決意しました。

男性団員の中に入ってやって行くということは自分の気持ちをしっかりと持って先輩方に負けないという気持ちが大事だと思い、出動や訓練など、男性団員と同じ活動をしています。

しかし、今までの流れの団活動や出動時の行動などに疑問があり新しい時代と共に求められている事があることも知り、新しい分野への女性団員の活動の幅を広げたいと思うようになり、自らの企画で地域と交わる機会を作ろうと決意したのです。

先ず、その一つ目は、研修会で在日米海軍司令部地域統合消防隊予防課長の長谷川裕子氏の講演内容に衝撃を受けてこれだ！と思ったことでした。

その内容は、アメリカの子供たちに行われている危険に遭遇したときの行動等を教

える方法でした。これを地域の子供達にも伝えたいと思い地元の保育園へ初めて防災の訓練に行きました。どうやったら子供達がきちんと身につくように聴いてくれるかいろいろと考え、紙芝居やクイズ方式にしたり、体を動かしてやったりと内容盛りだくさんにして行いました。最後にテストをしたときにみんなが全問正解してくれてとても嬉しかったです。

これからの時代、子供であっても自らの命は自らで守ると言う事を教えて行かなければならないと実感してこれからも内容を見直しながら続けて行きたいと思っています。

次に女性団員として企画したのが地元の防災イベントへの参加でした。

内容は炊き出しなのですが、実際の災害現場は手の込んだことは出来ないのではないかと考え、誰でもすぐに出来る簡単な炊き出しを考えました。

カレーや豚汁という炊き出しが多かったのですが思ったより準備が大変の様でしたので私は地元の食材を使った魚のすり身とお豆腐、そして乾燥わかめと言った内容でだしは地元企業で作られている液状のだしのもとを使いました。

分量を量り、お湯を沸かしだしのもとを入れるだけでおいしいスープが出来、魚のすり身とお豆腐をぽんと入れ、仕上げに乾燥わかめを入れると出来上がりでとっても好評でした。すり身もお豆腐も今後はフリーズドライに加工して常備出来るようにして行きたいと言う事も考えています。ご飯はお米を袋に入れてお湯に入れるとすぐに出来るというタイプの袋がありこれを活用しましたので、両方ともとても簡単においしい炊き出しをすることが出来ました。地域の方との交流をして喜んで頂き、作り方を教えてと言われたり避難方法などについての相談を受け、私たち女性消防団員は地域の女性たちの声もしっかりと聞き取って行かなければならないなとあらためて使命感を感じました。

昨年、東京で行われた消防団幹部候補中央特別研修に参加させて頂き同じ志で頑張っている女性団員の方たちの友達も出来、連絡を取り合いながら切磋琢磨して消防団活動を頑張って行こうと思っています。

今後、地域防災に生かせる新たな資格取得などにもチャレンジして行けるように取り組むと共にこれからも新時代を担う私たち女性消防団として「自分たちに出来る地域貢献！」を志に消防団活動を行って参ります！

消防団活動事例

「市民から信頼される消防団を目指して」

千歳市消防団　団長　橋本　泰二

1　千歳市の紹介

大火の日に伴う召集訓練

千歳市は、人口が９万５千人、面積は東京23区と同規模の594.9㎢で、北海道の道央圏のほぼ中央に位置し東西に細長く、西部は国立公園支笏湖や樽前山を有する山岳地帯、東部は市街地から平野が広がり丘陵に続く、一大農業生産地帯となっています。

支笏湖を源流とし市街中心部を流れる清冽な千歳川は、豊かな自然の恵みと安らぎを与え、秋には市の魚であるサケが大量に遡上し、捕獲が間近で見られる河川として広く知られており、市民に憩いの場として親しまれているところです。

また、北の空の玄関である新千歳空港は3,000m級の滑走路２本を有する国際空港で、羽田空港、成田空港に次ぐ乗降客を記録し、昨年の利用者数は1,746万人を数え年々増加傾向にあります。

さらに、当市は人口減少が続いている北海道の中で、人口が増加している数少ない街の１つで、平均年齢は41.3歳と北海道で最も若い市町村となっています。

2　千歳市消防団の概要

千歳市消防団は、防災の要として市民の目線に立った活動を念頭に日々訓練に励んでおり、その前身は、大正11年に有志35名で組織された千歳村消防組から始まり、昭和22年の消防団条例の制定を機に千歳町消防団として組織されました。

現在は、条例定数180名に対して実員177名の消防団員が在籍しており、１消防団８分団体制で地域の防災を担っています。

市街地の３分団は、災害対応はもちろんのこと、市民や町内会、学校、各事業所などに、AED等の普及啓発を含めた救命講習を盛んに行っています。また、消防団員が応急手当指導員の資格を取得しており、消防団員自らが応急手当普及員の養成を行う体制を整え、市内における救命率の向上や応急手当の普及に大きく貢献しています。

中でも千歳第３分団は、女性消防団員単独の分団として平成23年８月に16名で発足し、一人暮らしのお年寄りの住宅を訪問して手作りの防火啓発グッズを配布したり、市内保育所等を回り防火紙芝居による幼年期の防火教育を行うなど女性ならではのソフトな対応で広く火災予防の啓発に寄与しています。

千歳第３分団

一方、郊外の農村地区の４分団には、消防積載車が配備され、市街地から遠方となる担当地域での災害に対して、迅速に消火活動が出来るよう訓練を実施しています。

また、支笏湖地区の分団は観光名所として毎年多くの観光客や登山者が訪れ、市街地から20㎞以上離れた場所にあることから、火災出動のみならず水難救助事案や山岳での捜索など活動範囲は多岐にわたり、地域の安全を担う重要な役割を果たしています。

防火紙芝居による防火啓発

訓練市長査閲（そなえーる）

3　千歳市消防団の活動

消防団における１年間の活動は、１月の出初式に始まり３月の消防記念日特別講演会、６月には全消防団員が集まり日頃の訓練を披露する消防職・団員訓練市長査閲を実施しています。さらに、９月には自主防災組織を中心に各機関が参加する千歳市総合防災訓練と昭和30年に市内中心部で起きた大火を忘れないために早朝訓練を行い、11月に近隣の恵庭市、北広島市と合同で現地教育訓練を開催するほか、市民火災予防運動期間中には街頭啓発や防火夜回り、一般住宅査察などを行っています。

4　新千歳空港における大規模総合訓練への参加

新千歳空港は、常に航空機災害の危険と隣り合わせとなっていることから、空港を管理する国土交通省東京航空局新千歳空港事務所が、毎年、定期

的に航空機事故を想定した消火救難医療総合訓練を実施しています。

本年の訓練は９月26日に実施され、当市消防本部をはじめ隣接する苫小牧市消防本部や警察、自衛隊、医師会等の26機関238名が、災害発生後の初動体制と連携を確認する大規模な訓練であり、当消防団からも12名の団員が訓練に参加しました。

エンジントラブルにより緊急着陸した航空機への消火活動と並行して、消防団に与えられた任務は、消防隊により航空機から救出された乗客をトリアージ地区まで担架により搬送する業務と、トリアージされた傷病者が救急車によって搬送されるまでの救護所における応急手当の支援活動です。

実際の航空機を使用して緊張が高まる中、速やかに乗客の安全を確保しながら各関係機関が連携して乗客を救出し災害を最小限に食い止める一連の訓練は、災害対応を任務とする消防団にとって貴重な経験を重ねる場となっています。

新千歳空港における大規模総合訓練

機内から救出された負傷者の搬送

救護所内での応急手当、観察

5　おわりに

近年、私たちの周りで起こっている災害は、平成23年３月11日に発生した東日本大震災をはじめとして、決して対岸の火事として傍観していられる事案はなくなってきています。当市においても、平成４年に管轄区域の道央自動車道で暴風雪により186台の車両を巻き込む多重衝突事故が発生するとともに、平成12年には有珠山の噴火、さらに、平成15年は十勝沖地震を契機とした苫小牧市での出光興産北海道製油所のタンク火災など大規模災害が発生しており、近年、全国各地で発生している自然災害は枚挙にいとまがありません。

私たち千歳市消防団は、いつ発生するかもしれない災害に迅速に対応できるよう日々訓練を継続し、市民から信頼される消防団を目指す所存であります。

第29回日中消防協会定期協議会を終えて

財団法人　日本消防協会　国際部

平成25年11月26日（火）東京都港区のホテルオークラにおいて、日本消防協会から秋本会長以下９名、中国消防協会から高秘書長以下７名が出席し、第29回日中消防協会定期協議会が開催されました。

はじめに、秋本会長から中国消防協会代表団来日の歓迎の挨拶及び日中消防友好のための尽力に対し敬意を表し、今後も引き続き両国が友好的な協力関係を築くことが、両国消防の発展、更にはアジア、世界の消防の発展に繋がる旨の挨拶がありました。

定期協議会は、開催国である日本消防協会の秋本会長を議長に選出して行われ、提出議題４件について議事が進められ議題は全て両国で合意されました。協議結果は以下のとおりです。

1　第30回日中消防協会定期協議会の開催及び第29回、30回日中消防友好調査団の派遣について

（1）　開催日程　平成26年を予定

（2）　開催場所　北京（中国）

（3）　調 査 先　第29回調査は海南省・浙江省・上海市を予定。第30回調査は北京市を含め中国消防協会の推薦に基づき協議

2　中国消防研修視察団の受入について

（1）　研修期間　平成26年度に予定

（2）　研修人数　毎期５名（中級幹部クラス以上の消防関係者及びそれに相当する技術者）

（3）　研修内容　専門的消防研修とし、具体的な研修内容は中国消防協会と協議

3　2014年中国消防協会主催の消防科学技術年度会議への日本の専門家の出席、及び2015年中国消防協会主催の第16回北京国際消防設備技術交流展覧会についての日本メーカーへの周知について

2014年消防科学技術年度会議への日本の専門家派遣について、関係団体とも相談しながら今後検討。消防展覧会についての日本メーカーへの周知について、日本消防協会のウェブサイトや出版物を通じて周知する。

4　日中両国の最近の消防事情について

日本側は東日本大震災を踏まえた消防体制の充実について、中国側は中国消防協会の最近の業務・活動状況について情報交流をした。

平成25年秋の叙勲（消防関係）

総務省消防庁

平成25年秋の叙勲（消防関係）受章者は、633名で勲章別内訳は次のとおりです。

瑞宝小綬章	36名
旭日双光章	3名
瑞宝双光章	75名
瑞宝単光章	519名
計	633名

受章者は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与された方々です。

○　伝達式日程

1　日　　時　11月７日（木）11時15分～11時45分

2　場　　所　ニッショーホール

港区虎ノ門二丁目９番16号

平成25年秋の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）
瑞　小	北　海　道	元　小樽市 消防正監	廣田　宰（70）	瑞　双	北　海　道	元　士別地方消防事務組合朝日町消防団 団長	坂本　勝己（70）
瑞　双	北　海　道	元　夕張市消防団 団長	大西　巖夫（81）	瑞　双	北　海　道	元　日高西部消防組合日高消防団 団長	鈴木　恒（77）
瑞　双	北　海　道	元　釧路市消防団 副団長	大平　武夫（82）	瑞　双	北　海　道	元　上川中部消防組合当麻消防団 団長	住田　典路（72）
瑞　双	北　海　道	元　八雲町八雲消防団 団長	岡嶋　敏夫（72）	瑞　双	北　海　道	元　砂川地区広域消防組合奈井江消防団 団長	千德　勉也（85）
瑞　双	北　海　道	元　檜山広域行政組合乙部町消防団 団長	印牧　博（71）	瑞　双	北　海　道	元　北留萌消防組合幌延町消防団 団長	谷口　亨（77）
瑞　双	北　海　道	元　江別市消防団 団長	郷　國男（75）	瑞　双	北　海　道	元　西胆振消防組合伊達消防団 団長	寺島　茂之（75）

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）
瑞双	北海道	元 上川北部消防事務組合名寄消防団 団長	長谷川 米茂（84）	瑞単	北海道	元 石狩北部地区消防事務組合厚田消防団 分団長	河合 英治（69）
瑞双	北海道	元 西十勝消防組合屈足消防団 団長	廣澤 幸雄（73）	瑞単	北海道	元 斜里地区消防組合斜里消防団 分団長	北村 喜義（71）
瑞双	北海道	元 東十勝消防事務組合浦幌消防団 団長	山本 倖嗣（73）	瑞単	北海道	元 日高中部消防組合静内消防団 副団長	木下 良時（75）
瑞双	北海道	元 北留萌消防組合初山別村消防団 団長	山本 光雄（74）	瑞単	北海道	元 北見地区消防組合訓子府消防団 副団長	輿石 英男（71）
瑞双	北海道	元 深川地区消防組合沼田消防団 団長	渡部 稔（75）	瑞単	北海道	元 西十勝消防組合芽室消防団 分団長	坂井 繁隆（76）
瑞単	北海道	元 釧路市消防団 副分団長	阿部 孝三（84）	瑞単	北海道	元 上川南部消防事務組合中富良野消防団 副団長	島 邦夫（76）
瑞単	北海道	元 留萌消防組合小平消防団 団長	五十嵐 正孝（70）	瑞単	北海道	元 南宗谷消防組合中頓別消防団 分団長	代藏 稔昭（82）
瑞単	北海道	元 上川中部消防組合鷹栖消防団 分団長	今井 孝一（75）	瑞単	北海道	元 池北三町行政事務組合足寄消防団 副分団長	菅原 武志（78）
瑞単	北海道	元 札幌市白石消防団 分団長	上田 實（84）	瑞単	北海道	元 旭川市消防団 分団長	鈴木 實（75）
瑞単	北海道	元 恵庭市消防団 副分団長	小柳 重治（76）	瑞単	北海道	元 岩内・寿都地方消防組合共和消防団 副団長	武田 敏昭（74）
瑞単	北海道	元 渡島西部広域事務組合福島消防団 団長	加納 洋一（74）	瑞単	北海道	元 日高西部消防組合門別消防団 分団長	谷口 光義（74）
瑞単	北海道	元 八雲町消防団 分団長	亀谷 重光（72）	瑞単	北海道	元 帯広市消防団 分団長	千田 弘明（79）
瑞単	北海道	元 胆振東部消防組合鵡川消防団 副団長	辻野 寛治（73）	瑞単	北海道	元 函館市函館消防団 副団長	藤村 信義（72）
瑞単	北海道	元 岩見沢地区消防事務組合岩見沢消防団 副団長	長永 克己（77）	瑞単	北海道	元 砂川地区広域消防組合奈井江消防団 副団長	松嶋 弘知（73）
瑞単	北海道	元 苫小牧市消防団 副団長	中嶋 國男（74）	瑞単	北海道	元 南空知消防組合南幌消防団 副団長	宮﨑 襲雄（75）
瑞単	北海道	元 滝川地区広域消防事務組合雨竜消防団 分団長	中西 隼一（73）	瑞単	北海道	元 留辺蘂町消防団 副分団長	山梨 昭雄（79）
瑞単	北海道	元 江別市消防団 副団長	中野 廣吉（75）	瑞単	北海道	元 札幌市南消防団 分団長	吉田 芳明（84）
瑞単	北海道	元 遠軽地区広域組合遠軽町消防団 副団長	中村 順一（75）	瑞単	北海道	元 夕張市消防団 副団長	吉野 功（75）
瑞単	北海道	元 釧路東部消防組合釧路消防団 団長	西村 英春（70）	瑞単	北海道	元 小樽市消防団 副団長	六条 祐二（71）
瑞単	北海道	元 函館市函館消防団 副団長	八戸 尚勝（74）	瑞単	北海道	元 羊蹄山ろく消防組合蘭越消防団 副分団長	脇山 憲二（77）
瑞単	北海道	元 北後志消防組合仁木消防団 副団長	林 精弘（77）	瑞双	青森県	元 大鰐町消防団 団長	前田 清勝（78）
瑞単	北海道	元 檜山広域行政組合せたな町瀬棚消防団 分団長	福井 利光（71）	瑞単	青森県	元 浪岡町消防団 分団長	石岡 一（74）
瑞単	北海道	元 南十勝消防事務組合大樹消防団 分団長	藤江 英二（80）	瑞単	青森県	元 青森市青森消防団 団長	小笠原 峰一（69）
瑞単	北海道	元 富良野地区消防組合富良野消防団 副分団長	藤田 史朗（76）	瑞単	青森県	元 八戸市消防団 分団長	川越 正夫（74）

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）
瑞単	青森県	元　十和田市消防団 副団長	川村愼一（70）	瑞双	岩手県	元　洋野町連合消防団 団長	七役幸三（76）
瑞単	青森県	元　黒石市消防団 副団長	木村兼作（71）	瑞単	岩手県	元　紫波町消防団 分団長	阿部清（81）
瑞単	青森県	元　百石町消防団 分団長	小向通保（72）	瑞単	岩手県	元　盛岡市消防団 分団長	荒川利彦（70）
瑞単	青森県	元　むつ市消防団 分団長	斎藤卓治（73）	瑞単	岩手県	元　沢内村消防団 副分団長	有馬毅（81）
瑞単	青森県	元　柏村消防団 副団長	柴谷松雄（71）	瑞単	岩手県	元　西根町消防団 分団長	伊東清（82）
瑞単	青森県	元　南郷村消防団 分団長	曾我勝男（73）	瑞単	岩手県	元　東山町消防団 分団長	五安城篤平（81）
瑞単	青森県	元　田子町消防団 分団長	立本實（72）	瑞単	岩手県	元　久慈市消防団 副団長	長内清藏（67）
瑞単	青森県	元　横浜町消防団 分団長	中島誠（72）	瑞単	岩手県	元　花巻市消防団 分団長	小原明（84）
瑞単	青森県	元　平舘村消防団 分団長	福井則雄（75）	瑞単	岩手県	元　江刺市消防団 分団長	菊地昭治（86）
瑞単	青森県	元　五所川原市消防団 分団長	藤田清治（76）	瑞単	岩手県	元　陸前高田市消防団 副分団長	熊谷巖（80）
瑞単	青森県	元　弘前市消防団 副団長	三上澄雄（74）	瑞単	岩手県	元　遠野市消防団 副分団長	佐々木久一（76）
瑞単	青森県	元　市浦村消防団 分団長	三和隆（76）	瑞単	岩手県	元　江刺市消防団 分団長	佐野吉郎（85）

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）
瑞単	岩手県	元　安代町消防団 分団長	関輝夫（81）	瑞小	宮城県	元　仙台市 消防正監	且又久治（70）
瑞単	岩手県	元　盛岡市消防団 副団長	田澤進（70）	瑞小	宮城県	元　仙台市 消防正監	森正志（70）
瑞単	岩手県	元　北上市消防団 副団長	照井浩（78）	瑞小	宮城県	元　仙台市 消防司監	山内伸一（70）
瑞単	岩手県	元　宮古市消防団 分団長	戸村正一（82）	瑞単	宮城県	元　富谷町消防団 分団長	浅場富雄（83）
瑞単	岩手県	元　二戸市消防団 分団長	中村隆（77）	瑞単	宮城県	元　女川町消防団 分団長	麻里正孝（78）
瑞単	岩手県	元　一関市消防団 分団長	平間紀夫（73）	瑞単	宮城県	元　石巻市石巻消防団 副団長	阿部精（75）
瑞単	岩手県	元　葛巻町消防団 副分団長	府金正次郎（72）	瑞単	宮城県	元　北上町消防団 副団長	安部貞郎（72）
瑞単	岩手県	元　釜石市消防団 副分団長	藤井軍一（74）	瑞単	宮城県	元　宮崎町消防団 分団長	猪股正（81）
瑞単	岩手県	元　花巻市消防団 団長	藤原志功（66）	瑞単	宮城県	元　大河原町消防団 分団長	岩間健一郎（86）
瑞単	岩手県	元　洋野町消防団 副団長	間澤榮次郎（71）	瑞単	宮城県	元　大崎市消防団 副団長	大崎敏和（70）
瑞単	岩手県	元　宮古市消防団 分団長	渡邊智昭（73）	瑞単	宮城県	元　鳴子町消防団 分団長	大沼秀雄（83）
瑞小	宮城県	元　石巻地区広域行政事務組合 消防正監	加賀見勝敏（70）	瑞単	宮城県	元　気仙沼市消防団 副団長	奥田良一（73）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）
瑞　単	宮　城　県	元　南郷町消防団 分団長	小野禮一（80）	瑞　単	宮　城　県	元　亘理町消防団 副団長	髙城一治（76）
瑞　単	宮　城　県	元　仙台市宮城野消防団 副団長	小野寺政一（70）	瑞　単	宮　城　県	元　大河原町消防団 分団長	髙橋宗一（77）
瑞　単	宮　城　県	元　河南町消防団 副団長	小野寺卓男（71）	瑞　単	宮　城　県	元　松島町消防団 分団長	丹野盛夫（76）
瑞　単	宮　城　県	元　瀬峰町消防団 分団長	小野寺傳志（87）	瑞　単	宮　城　県	元　白石市消防団 副団長	樋口祝郎（73）
瑞　単	宮　城　県	元　唐桑町消防団 分団長	男庯力（80）	瑞　単	宮　城　県	元　小牛田町消防団 分団長	谷代功（78）
瑞　単	宮　城　県	元　富谷町消防団 分団長	菊地清悦（80）	瑞　双	秋　田　県	元　大仙市消防団 副団長	田中十九也（77）
瑞　単	宮　城　県	元　古川市消防団 分団長	工藤秀昭（84）	瑞　単	秋　田　県	元　大曲市消防団 分団長	伊藤康夫（75）
瑞　単	宮　城　県	元　村田町消防団 分団長	小林亨（78）	瑞　単	秋　田　県	元　仙北市田沢湖消防団 団長	大石正文（68）
瑞　単	宮　城　県	元　金成町消防団 分団長	近藤學（81）	瑞　単	秋　田　県	元　西仙北町消防団 分団長	大友久夫（76）
瑞　単	宮　城　県	元　気仙沼市消防団 分団長	齊藤庇（79）	瑞　単	秋　田　県	元　雄勝町消防団 副団長	奥山英一（77）
瑞　単	宮　城　県	元　蔵王町消防団 分団長	齋藤政吉（85）	瑞　単	秋　田　県	元　南外村消防団 分団長	加澤義春（77）
瑞　単	宮　城　県	元　築館町消防団 分団長	鈴木雄一（79）	瑞　単	秋　田　県	元　横手市消防団 分団長	鎌田義一（81）
瑞　単	秋　田　県	元　角館町消防団 副団長	鎌田義太郎（73）	瑞　単	秋　田　県	元　能代市連合消防団 能代消防団 分団長	平塚尚（71）
瑞　単	秋　田　県	元　山内村消防団 分団長	木村正雄（77）	瑞　単	秋　田　県	元　能代市消防団 分団長	三浦滿郎（81）
瑞　単	秋　田　県	元　秋田市消防団 分団長	熊谷甚市郎（79）	瑞　単	秋　田　県	元　羽後町消防団 分団長	米山忠一（85）
瑞　単	秋　田　県	元　岩城町消防団 分団長	今野哲雄（78）	瑞　単	山　形　県	元　真室川町消防団 分団長	木戸安男（74）
瑞　単	秋　田　県	元　西仙北町消防団 団長	佐々木康之（72）	瑞　単	山　形　県	元　酒田市消防団 分団長	佐々木彌七（78）
瑞　単	秋　田　県	元　秋田市消防団 副団長	佐藤鈴雄（79）	瑞　単	山　形　県	元　最上町消防団 副団長	佐藤征太郎（75）
瑞　単	秋　田　県	元　潟上市消防団 副団長	菅原純一（72）	瑞　単	山　形　県	元　遊佐町消防団 副団長	髙橋豊司（65）
瑞　単	秋　田　県	元　秋田市消防団 分団長	髙橋佐久男（80）	瑞　単	山　形　県	元　尾花沢市消防団 分団長	土屋總一郎（67）
瑞　単	秋　田　県	元　大館市消防団 分団長	武田方昭（74）	瑞　単	山　形　県	元　舟形町消防団 副団長	沼澤喜一（65）
瑞　単	秋　田　県	元　羽後町消防団 分団長	寺田一夫（86）	瑞　単	山　形　県	元　小国町消防団 分団長	益田勝雄（68）
瑞　単	秋　田　県	元　大館市消防団 分団長	花岡義彦（74）	瑞　単	山　形　県	元　朝日村消防団 分団長	三浦義久（80）
瑞　単	秋　田　県	元　仙北市角館消防団 団長	林崎一美（68）	瑞　単	山　形　県	元　米沢市消防団 副団長	村山正美（65）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）
瑞　小	福島県	元　いわき市 消防正監	遠藤健一（70）	瑞　単	福島県	元　柳津町消防団 分団長	齋藤静夫（80）
瑞　双	福島県	元　いわき市消防団 団長	麻原秀雄（76）	瑞　単	福島県	元　相馬市消防団 分団長	齋藤基次（72）
瑞　双	福島県	元　北塩原村消防団 団長	齋藤喜代一（68）	瑞　単	福島県	元　只見町消防団 副団長	佐藤伊佐男（69）
瑞　双	福島県	元　伊達市消防団 団長	庄子隆二（73）	瑞　単	福島県	元　郡山市消防団 副団長	佐藤廣（65）
瑞　双	福島県	元　二本松市消防団 団長	服部嘉夫（68）	瑞　単	福島県	元　川内村消防団 分団長	佐藤義秋（68）
瑞　単	福島県	元　郡山市消防団 副団長	石井源泉（71）	瑞　単	福島県	元　いわき市消防団 副団長	中野隆（70）
瑞　単	福島県	元　西会津町消防団 団長	江川貞一（68）	瑞　単	福島県	元　福島市消防団 分団長	皆川壽賀美（74）
瑞　単	福島県	元　福島市消防団 分団長	遠藤久男（72）	瑞　単	福島県	元　いわき市消防団 副団長	箭内佐久治（75）
瑞　単	福島県	元　いわき市消防団 副団長	小野雄一（68）	瑞　小	茨城県	元　稲敷地方広域市町村圏事務組合 消防正監	酒井保之（70）
瑞　単	福島県	元　霊山町消防団 副団長	菅野直光（70）	瑞　双	茨城県	元　下妻市千代川消防団 団長	平塚順一（70）
瑞　単	福島県	元　国見町消防団 分団長	菊地孝一（75）	瑞　単	茨城県	元　日立市消防団 副団長	會澤順一（72）
瑞　単	福島県	元　喜多方市消防団 副団長	小林宗一（65）	瑞　単	茨城県	元　美野里町消防団 副団長	井坂佑（71）
瑞　単	茨城県	元　かすみがうら市消防団 副団長	君山孝男（67）	瑞　単	栃木県	元　日光市足尾消防団 団長	齊藤祐一（70）
瑞　単	茨城県	元　水海道市消防団 分団長	倉持正男（80）	瑞　単	栃木県	元　栃木市消防団 分団長	渡邉重夫（78）
瑞　単	茨城県	元　取手市消防団 副団長	小間一英（69）	瑞　双	群馬県	元　大泉町消防団 団長	久保田光昭（70）
瑞　単	茨城県	元　水戸市消防団 分団長	笹沼勝德（71）	瑞　単	群馬県	元　上野村消防団 副団長	今井正企（78）
瑞　単	茨城県	元　常陸太田市消防団 副団長	鈴木敏雄（74）	瑞　単	群馬県	元　万場町消防団 団長	黒澤定雄（64）
瑞　単	茨城県	元　下館市消防団 分団長	長岡清（77）	瑞　単	群馬県	元　藤岡市消防団 団長	根岸敏男（64）
瑞　単	茨城県	元　笠間市笠間地区消防団 団長	増渕勝三（71）	瑞　単	群馬県	元　上野村消防団 団長	宮澤年彦（70）
瑞　単	茨城県	元　麻生町消防団 副団長	横山喜延（82）	瑞　小	埼玉県	元　川越地区消防組合 消防正監	市川六三郎（74）
瑞　双	栃木県	元　日光市栗山消防団 団長	髙槻正吉（68）	瑞　小	埼玉県	元　大宮市 消防正監	長谷川辰雄（73）
瑞　単	栃木県	元　南河内町消防団 団長	伊澤義久（67）	瑞　双	埼玉県	元　桶川市消防団 団長	和久津和夫（77）
瑞　単	栃木県	元　宇都宮市消防団 分団長	大関勝夫（75）	瑞　単	埼玉県	元　川口市消防団 分団長	荒井武士郎（70）
瑞　単	栃木県	元　大田原市消防団 団長	越沼稔（67）	瑞　単	埼玉県	元　秩父市消防団 団長	飯島宏一（66）

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）
瑞単	埼玉県	元 草加市消防団 団長	内田記三郎（70）	瑞双	千葉県	元 安房郡市広域市町村圏事務組合 消防正監	加藤友信（71）
瑞単	埼玉県	元 与野市消防団 分団長	岡田茂吉（79）	瑞双	千葉県	元 いすみ市消防団 団長	増田久雄（65）
瑞単	埼玉県	元 さいたま市消防団 分団長	小川功吉（75）	瑞双	千葉県	元 酒々井町消防団 団長	宮野孝雄（71）
瑞単	埼玉県	元 埼玉西部広域事務組合飯能消防団 団長	柿沼敏夫（67）	瑞単	千葉県	元 蓮沼村消防団 団長	秋葉敏勝（65）
瑞単	埼玉県	元 大滝村消防団 副団長	黒澤勝也（69）	瑞単	千葉県	元 松戸市消防団 副団長	飯田聰（69）
瑞単	埼玉県	元 宮代町消防団 分団長	小林昭夫（80）	瑞単	千葉県	元 海上町消防団 副団長	岩﨑好治（78）
瑞単	埼玉県	元 さいたま市消防団 分団長	髙橋宏（82）	瑞単	千葉県	元 大網白里町消防団 副団長	川島敏和（71）
瑞単	埼玉県	元 熊谷市消防団 分団長	門叶一男（70）	瑞単	千葉県	元 東金市消防団 副団長	川嶋正明（70）
瑞単	埼玉県	元 松伏町消防団 副団長	山崎正義（77）	瑞単	千葉県	元 勝浦市消防団 副団長	森勇（78）
瑞小	千葉県	元 佐倉市八街市酒々井町消防組合 消防正監	大野和利（72）	瑞小	東京都	元 東京消防庁 消防司監	竹内良平（70）
瑞小	千葉県	元 長生郡市広域市町村圏組合 消防正監	小出篤則（72）	瑞小	東京都	元 東京消防庁 消防司監	三上進（70）
瑞双	千葉県	元 八千代市消防団 団長	大澤英明（71）	瑞双	東京都	元 目黒消防団 団長	石川元保（72）
瑞双	東京都	元 江戸川消防団 団長	大塩重喜（72）	瑞単	東京都	元 石神井消防団 分団長	野田兼惟（76）
瑞双	東京都	元 品川消防団 団長	田中勝美（67）	瑞単	東京都	元 荻窪消防団 分団長	野田盛夫（81）
瑞双	東京都	元 麻布消防団 団長	野口守（69）	瑞単	東京都	元 世田谷消防団 副団長	葉山茂保（76）
瑞単	東京都	元 成城消防団 副団長	安藤光夫（72）	瑞単	東京都	元 神田消防団 副団長	平井晴男（77）
瑞単	東京都	元 板橋消防団 副団長	内田武志（74）	瑞単	東京都	元 牛込消防団 副団長	平鍋孝夫（71）
瑞単	東京都	元 豊島消防団 分団長	小島二郎（73）	瑞単	東京都	元 町田市消防団 団長	比留間安雄（70）
瑞単	東京都	元 荒川消防団 団長	髙津航司（71）	瑞単	東京都	元 金町消防団 分団長	藤田幸廣（78）
瑞単	東京都	元 千住消防団 団長	多氣勝治（69）	瑞単	東京都	元 野方消防団 副団長	踏分清（78）
瑞単	東京都	元 滝野川消防団 副団長	田嶋光藏（71）	瑞単	東京都	元 保谷市消防団 団長	細田修克（71）
瑞単	東京都	元 本郷消防団 団長	玉井通仁（71）	瑞単	東京都	元 光が丘消防団 副団長	本橋昭夫（69）
瑞単	東京都	元 日本橋消防団 分団長	田村新三（81）	瑞単	東京都	元 向島消防団 副団長	森肇（75）
瑞単	東京都	元 城東消防団 分団長	野口勝美（81）	瑞単	東京都	元 本所消防団 分団長	吉田尚暉（72）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）
瑞　単	東　京　都	元　荏原消防団 副団長	葭原　勝之（73）	瑞　単	神奈川県	元　津久井町消防団 団長	菊地原　常康（74）
瑞　小	神奈川県	元　厚木市 消防正監	小島　一郎（70）	瑞　単	神奈川県	元　川崎市高津消防団 副団長	岸　鶴吉（73）
瑞　小	神奈川県	元　川崎市 消防司監	後藤　清（70）	瑞　単	神奈川県	元　横須賀市消防団 分団長	坂本　之彦（75）
瑞　小	神奈川県	元　横須賀市 消防正監	鈴木　金雄（70）	瑞　単	神奈川県	元　横浜市緑消防団 団長	鮫島　登（70）
瑞　小	神奈川県	元　川崎市 消防正監	鈴木　秀児（73）	瑞　単	神奈川県	元　鎌倉市消防団 分団長	澁谷　進（74）
瑞　小	神奈川県	元　小田原市 消防正監	髙橋　廣毅（77）	瑞　単	神奈川県	元　藤沢市消防団 分団長	菅井　功（74）
瑞　小	神奈川県	元　横浜市 消防正監	角守　武（72）	瑞　単	神奈川県	元　相模原市相模原消防団 団長	田中　勝（73）
瑞　小	神奈川県	元　横浜市 消防正監	山下　富士雄（70）	瑞　単	神奈川県	元　大井町消防団 団長	福田　勝市（70）
瑞　双	神奈川県	元　小田原市 消防正監	二見　泰亘（70）	瑞　単	神奈川県	元　藤野町消防団 団長	船橋　忠男（73）
瑞　単	神奈川県	元　平塚市消防団 副団長	安藤　通章（72）	瑞　単	神奈川県	元　横浜市加賀町消防団 団長	程島　正雄（72）
瑞　単	神奈川県	元　横浜市戸塚消防団 副団長	岩﨑　幸雄（79）	瑞　単	神奈川県	元　横浜市港南消防団 分団長	宮川　吉郎（78）
瑞　単	神奈川県	元　小田原市消防団 分団長	加藤　孝雄（70）	瑞　単	神奈川県	元　横浜市金沢消防団 副団長	渡邊　和男（78）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）
瑞　双	新　潟　県	元　新潟市西消防団 副団長	野澤　義夫（77）	瑞　単	新　潟　県	元　上越市消防団 副団長	立入　敏雄（67）
瑞　双	新　潟　県	元　新潟市 消防正監	森山　一夫（71）	瑞　単	新　潟　県	元　聖籠町消防団 副団長	土田　正司（75）
瑞　双	新　潟　県	元　和島村消防団 団長	八子　八十吉（82）	瑞　単	新　潟　県	元　三条市消防団 分団長	新飯田　耕作（83）
瑞　単	新　潟　県	元　燕市消防団 団長	青柳　弘（69）	瑞　単	新　潟　県	元　加茂市消防団 分団長	丸山　朝雄（79）
瑞　単	新　潟　県	元　京ヶ瀬村消防団 副団長	阿部　辰雄（84）	瑞　単	新　潟　県	元　大島村消防団 副団長	丸山　孝（70）
瑞　単	新　潟　県	元　妙高市消防団 副団長	尾﨑　克敏（65）	瑞　単	新　潟　県	元　佐渡消防事務組合佐和田消防団 団長	横坂　義輝（74）
瑞　単	新　潟　県	元　三島町消防団 団長	河内　唯司（73）	瑞　単	新　潟　県	元　高柳町消防団 団長	若山　惣榮（75）
瑞　単	新　潟　県	元　新潟市東消防団 分団長	神田　廣（83）	瑞　単	富　山　県	元　庄川町消防団 団長	飯田　良榮（69）
瑞　単	新　潟　県	元　村松町消防団 分団長	榑井　武男（75）	瑞　単	富　山　県	元　小矢部市消防団 副団長	金谷　忠（70）
瑞　単	新　潟　県	元　新潟市消防団 副団長	小林　順次（70）	瑞　単	富　山　県	元　宇奈月町消防団 分団長	草野　好雄（73）
瑞　単	新　潟　県	元　長岡市消防団 分団長	齋藤　八十一（76）	瑞　単	富　山　県	元　富山市消防団 副団長	齊藤　達雄（70）
瑞　単	新　潟　県	元　阿賀町消防団 副団長	志田　保（69）	瑞　単	富　山　県	元　魚津市消防団 副団長	澤田　昭一（82）

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）
瑞単	富山県	元 滑川市消防団 副分団長	髙橋昭一（86）	瑞単	石川県	元 輪島市消防団 副団長	谷内公旗（71）
瑞単	富山県	元 八尾町消防団 分団長	中尾孝温（77）	瑞単	石川県	元 小松市消防団 副団長	吉岡利峰（71）
瑞単	富山県	元 高岡市伏木消防団 分団長	中木洋一（76）	瑞単	福井県	元 嶺北消防組合春江消防団 団長	内田一郎（73）
瑞単	富山県	元 富山市消防団 副団長	中村隆一（71）	瑞単	福井県	元 福井地区消防組合福井地区消防団 部長	髙屋鷹次郎（72）
瑞単	富山県	元 氷見市消防団 副団長	干場秀夫（74）	瑞単	福井県	元 勝山市消防団 分団長	立平等（82）
瑞単	富山県	元 高岡市消防団 分団長	村井弘（77）	瑞単	福井県	元 敦賀美方消防組合敦賀消防団 団長	谷本隆之（68）
瑞単	富山県	元 黒部市消防団 分団長	若澤實（82）	瑞単	福井県	元 南越消防組合越前市消防団 副団長	福田峯司（69）
瑞単	石川県	元 宇ノ気町消防団 副団長	梶谷鐵男（73）	瑞単	山梨県	元 秋山村消防団 副団長	志村髙雄（66）
瑞単	石川県	元 野々市町消防団 団長	清水隆德（70）	瑞単	山梨県	元 北杜市消防団 副団長	白倉豊伸（65）
瑞単	石川県	元 金沢市第二消防団 副団長	東正次（71）	瑞単	山梨県	元 大月市消防団 副団長	中尾助三（65）
瑞単	石川県	元 七尾鹿島広域圏事務組合第3消防団 副団長	古川繁（72）	瑞単	山梨県	元 小菅村消防団 団長	古家俊一（65）
瑞単	石川県	元 能都町消防団 団長	本谷正治（70）	瑞単	長野県	元 大鹿村消防団 団長	小原寿夫（60）
瑞単	長野県	元 岡谷市消防団 分団長	北川健一（64）	瑞単	岐阜県	元 飛驒市消防団 副団長	霜出忠一（65）
瑞単	長野県	元 木島平村消防団 団長	倉石忠明（66）	瑞単	岐阜県	元 輪之内町消防団 副団長	西松敬一（64）
瑞単	長野県	元 北御牧村消防団 団長	白倉正孝（60）	瑞単	岐阜県	元 岐阜市中消防団 副団長	平岡帝勇（72）
瑞単	長野県	元 小諸市消防団 団長	土屋幸一（60）	瑞小	静岡県	元 浜松市 消防正監	土屋冨夫（70）
瑞単	長野県	元 四賀村消防団 団長	丸山則行（62）	瑞双	静岡県	元 静岡市清水消防団 団長	塚口正憲（83）
瑞単	長野県	元 木島平村消防団 団長	湯本勝（61）	瑞単	静岡県	元 富士宮市消防団 副団長	伊藤勝利（68）
瑞双	岐阜県	元 大野町消防団 団長	林隆一（70）	瑞単	静岡県	元 御殿場市消防団 団長	勝間田千弘（66）
瑞単	岐阜県	元 下呂市小坂消防団 副団長	石丸悟（64）	瑞単	静岡県	元 富士市消防団 団長	早坂千賀夫（72）
瑞単	岐阜県	元 下呂市萩原消防団 団長	大前均（64）	瑞単	静岡県	元 三島市消防団 副団長	山梨寅雄（66）
瑞単	岐阜県	元 瑞浪市消防団 副団長	加藤博一（64）	瑞単	静岡県	元 小山町消防団 団長	横山政行（63）
瑞単	岐阜県	元 恵那市消防団 団長	鎌倉厚二（64）	瑞小	愛知県	元 名古屋市 消防正監	岡島英晴（76）
瑞単	岐阜県	元 岐阜市北消防団 副団長	神山喜一（66）	瑞小	愛知県	元 春日井市 消防正監	河村定弘（70）

賞　賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）
瑞小	愛知県	元 豊橋市 消防正監	近藤一雄（70）	瑞双	三重県	元 津市美杉消防団 団長	米倉義房（70）
瑞双	愛知県	元 あま市七宝消防団 団長	石原捷也（70）	瑞単	三重県	元 亀山市消防団 分団長	石原豊喜（65）
瑞双	愛知県	元 名古屋市筒井消防団 団長	渡邊勤（71）	瑞単	三重県	元 津市津消防団 分団長	伊藤国三（64）
瑞単	愛知県	元 名古屋市千鳥消防団 団長	磯部昌治（74）	瑞単	三重県	元 四日市市消防団 分団長	川村文六（66）
瑞単	愛知県	元 一宮市消防団 分団長	伊藤広治（66）	瑞単	三重県	元 紀宝町消防団 副団長	七瀧敏夫（71）
瑞単	愛知県	元 岡崎市広幡消防団 副団長	稲垣良美（67）	瑞単	三重県	元 熊野市消防団 分団長	前田光雄（67）
瑞単	愛知県	元 名古屋市西山消防団 団長	加藤昭昌（80）	瑞小	滋賀県	元 東近江行政組合 消防正監	中西貴三（73）
瑞単	愛知県	元 名古屋市西中島消防団 団長	鬼頭宏（73）	瑞単	滋賀県	元 新旭町消防団 団長	饗庭正隆（64）
瑞単	愛知県	元 一宮市消防団 分団長	田中雅夫（73）	瑞単	滋賀県	元 高島市消防団 副団長	岡本義弘（64）
瑞単	愛知県	元 名古屋市稲生消防団 団長	藤川一光（71）	瑞単	滋賀県	元 竜王町消防団 団長	勝見茂司（64）
瑞双	三重県	元 いなべ市消防団 副団長	位田章（71）	瑞単	滋賀県	元 五個荘町消防団 団長	三上己一郎（65）
瑞双	三重県	元 志摩市消防団 副団長	東山修（66）	瑞単	滋賀県	元 朽木村消防団 団長	宮田均（64）
瑞単	滋賀県	元 豊郷町消防団 団長	村岸善一（65）	瑞単	京都府	元 京都市伏見消防団 分団長	村田政義（79）
瑞小	京都府	元 京都市 消防正監	土居洋二（71）	瑞小	大阪府	元 茨木市 消防正監	武田忠義（71）
瑞双	京都府	元 京都市 消防正監	高木昭育（74）	瑞小	大阪府	元 高槻市 消防正監	鼻義博（72）
瑞単	京都府	元 舞鶴市東消防団 団長	飯野政信（66）	瑞小	大阪府	元 枚方寝屋川消防組合 消防正監	廣田茂（73）
瑞単	京都府	元 宮津市消防団 団長	磯野徹男（63）	瑞双	大阪府	元 貝塚市消防団 団長	西上博芳（69）
瑞単	京都府	元 和束町消防団 団長	北昇（64）	瑞双	大阪府	元 枚方市消防団 団長	山中茂晴（73）
瑞単	京都府	元 京都市右京消防団 分団長	小柴康宏（76）	瑞双	大阪府	元 忠岡町消防団 団長	山野義則（70）
瑞単	京都府	元 宇治田原町消防団 団長	弦川孝治（70）	瑞単	大阪府	元 泉佐野市消防団 副団長	木下正夫（67）
瑞単	京都府	元 京都市北消防団 分団長	野村勝三（75）	瑞単	大阪府	元 四條畷市消防団 分団長	久門廣美（65）
瑞単	京都府	元 京都市左京消防団 副団長	羽栗直和（70）	瑞単	大阪府	元 寝屋川市消防団 副団長	寺島伸一（68）
瑞単	京都府	元 京都市右京消防団 分団長	平井義昭（75）	瑞単	大阪府	元 豊中市消防団 分団長	西川敏彦（76）
瑞単	京都府	元 久御山町消防団 団長	宮川繁美（65）	瑞単	大阪府	元 高槻市消防団 分団長	藤下征一（72）

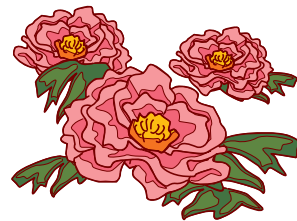
賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　　名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　　名（年齢）
瑞　単	大阪府	元　交野市消防団 副団長	向井　重晴（66）	瑞　単	兵庫県	元　相生市消防団 分団長	内海　康富（64）
瑞　単	大阪府	元　和泉市消防団 副団長	山本　好二（75）	瑞　単	兵庫県	元　姫路市姫路西消防団 団長	金澤　孝（69）
瑞　小	兵庫県	元　神戸市 消防正監	岡内　久明（73）	瑞　単	兵庫県	元　明石市消防団 分団長	五藤　晴敬（71）
瑞　小	兵庫県	元　神戸市 消防司監	田野　育利（74）	瑞　単	兵庫県	元　篠山市消防団 副団長	杉原　恭民（64）
瑞　双	兵庫県	元　尼崎市消防団 団長	井内　進（74）	瑞　単	兵庫県	元　尼崎市消防団 分団長	塚尾　隆作（69）
瑞　双	兵庫県	元　太子町消防団 団長	嶋澤　清美（72）	瑞　単	兵庫県	元　たつの市消防団 副団長	塚本　幸雄（64）
瑞　双	兵庫県	元　豊岡市城崎消防団 団長	日生下　愼一（70）	瑞　単	兵庫県	元　加古川市消防団 分団長	堤　昇一（65）
瑞　双	兵庫県	元　春日町消防団 団長	松山　修治（70）	瑞　単	兵庫県	元　赤穂市消防団 分団長	釣本　清司（64）
瑞　双	兵庫県	元　神戸市 消防正監	森井　賢治（77）	瑞　単	兵庫県	元　神戸市西消防団 副団長	野口　義美（72）
瑞　双	兵庫県	元　豊岡市竹野消防団 団長	山根　昌勝（70）	瑞　単	兵庫県	元　但東町消防団 団長	福田　隆（64）
瑞　双	兵庫県	元　西宮市消防団 団長	吉田　昭光（79）	瑞　単	兵庫県	元　芦屋市消防団 副分団長	細見　正志（86）
瑞　単	兵庫県	元　加古川市消防団 分団長	池上　正光（67）	瑞　単	兵庫県	元　姫路市飾磨消防団 分団長	前畑　義弘（79）
瑞　単	兵庫県	元　西宮市消防団 分団長	松本　収（76）	瑞　双	和歌山県	元　白浜町消防団 団長	池尾　勉（73）
瑞　単	兵庫県	元　神戸市北消防団 副団長	山田　洋（71）	瑞　双	和歌山県	元　古座川町消防団 団長	中谷　享輔（70）
瑞　単	兵庫県	元　朝来市消防団 副団長	吉成　惠（66）	瑞　単	和歌山県	元　田辺市消防団 副団長	家谷　保（76）
瑞　単	奈良県	元　大和郡山市消防団 分団長	澤井　榮次（76）	瑞　単	和歌山県	元　海南市消防団 副団長	間佐古　清文（70）
瑞　単	奈良県	元　桜井市消防団 分団長	今井　基雄（70）	瑞　単	和歌山県	元　御坊市消防団 分団長	北村　一（68）
瑞　単	奈良県	元　十津川村消防団 副団長	大前　茂夫（71）	瑞　単	和歌山県	元　橋本市消防団 分団長	阪部　道春（69）
瑞　単	奈良県	元　王寺町消防団 副団長	年財　弘（76）	瑞　単	和歌山県	元　那智勝浦町消防団 分団長	芝　好秀（78）
瑞　単	奈良県	元　大和高田市消防団 分団長	松長　實（78）	瑞　単	和歌山県	元　湯浅町消防団 副団長	茶賣　薩男（72）
瑞　単	奈良県	元　大淀町消防団 副団長	森脇　修（69）	瑞　単	和歌山県	元　広川町消防団 副分団長	宮﨑　恒夫（76）
瑞　単	奈良県	元　橿原市消防団 団長	山田　忠一（65）	瑞　単	和歌山県	元　高野町消防団 副団長	柳　葵（67）
瑞　単	奈良県	元　黒滝村消防団 副団長	吉村　利明（66）	瑞　双	鳥取県	元　青谷町消防団 団長	亀谷　勝彦（70）
瑞　小	和歌山県	元　和歌山市 消防正監	相坂　勳（70）	瑞　単	鳥取県	元　鳥取市消防団 分団長	砂川　啓治（76）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）
瑞　単	鳥取県	元　米子市消防団分団長	関谷　萬三二（75）	瑞　双	岡山県	元　有漢町消防団団長	大月　孝之（70）
瑞　単	鳥取県	元　三朝町消防団副団長	西田　親弘（79）	瑞　単	岡山県	元　倉敷市消防団分団長	石我　均（65）
瑞　単	鳥取県	元　湯梨浜町消防団副団長	林　雅則（66）	瑞　単	岡山県	元　有漢町消防団団長	植木　哲夫（65）
瑞　双	島根県	元　雲南市消防団副団長	錦織　恒德（67）	瑞　単	岡山県	元　岡山市消防団副団長	小田　明正（71）
瑞　双	島根県	元　隠岐の島町消防団団長	村上　滝信（78）	瑞　単	岡山県	元　新見市消防団分団長	木村　正明（66）
瑞　単	島根県	元　吉賀町消防団団長	安達　定男（78）	瑞　単	岡山県	元　岡山市消防団分団長	行司　芙己雄（72）
瑞　単	島根県	元　益田市消防団分団長	伊藤　茂雄（85）	瑞　単	岡山県	元　赤磐市消防団副団長	周藤　泰彦（67）
瑞　単	島根県	元　大田市消防団団長	片岳　俊治（76）	瑞　単	岡山県	元　玉野市消防団分団長	中川　道夫（68）
瑞　単	島根県	元　安来市消防団副団長	立賀　達夫（66）	瑞　単	岡山県	元　岡山市消防団分団長	根木　德昭（70）
瑞　単	島根県	元　川本町消防団副団長	田平　和三（65）	瑞　単	岡山県	元　倉敷市消防団分団長	八田　道弘（68）
瑞　単	島根県	元　三隅町消防団分団長	波田　義夫（80）	瑞　単	岡山県	元　湯原町消防団分団長	牧田　幸（73）
瑞　単	島根県	元　江津市消防団副分団長	原　覺（85）	瑞　単	岡山県	元　真庭市勝山消防団副団長	宮田　修治（65）
瑞　単	岡山県	元　旭町消防団団長	山﨑　友義（65）	瑞　単	広島県	元　広島市中消防団分団長	黒川　悟（84）
瑞　単	岡山県	元　笠岡市消防団分団長	山本　秀紀（66）	瑞　単	広島県	元　呉市消防団分団長	瀧口　勝行（75）
瑞　単	岡山県	元　真庭市落合消防団副団長	湯浅　和男（65）	瑞　単	広島県	元　加計町消防団部長	田地　政壽（80）
瑞　小	広島県	元　広島市消防正監	廣川　清昭（70）	瑞　単	広島県	元　大竹市消防団副団長	田中　英明（70）
瑞　双	広島県	元　甲山町消防団団長	小川　信晃（74）	瑞　単	広島県	元　宮島町消防団分団長	田畑　康雄（73）
瑞　双	広島県	元　三原市消防団分団長	松川　康三（73）	瑞　単	広島県	元　庄原市消防団副団長	寺岡　敏夫（74）
瑞　単	広島県	元　福山市消防団分団長	赤松　弘之（72）	瑞　単	広島県	元　広島市安佐北消防団副団長	中川　俊雄（70）
瑞　単	広島県	元　府中町消防団副団長	池田　浩幸（71）	瑞　単	広島県	元　坂町消防団分団長	中村　紀昭（70）
瑞　単	広島県	元　呉市消防団副分団長	上田　良秋（87）	瑞　単	広島県	元　美土里町消防団分団長	廣田　昭壮（82）
瑞　単	広島県	元　川尻町消防団分団長	沖田　俊三（75）	瑞　単	広島県	元　三次市消防団副分団長	福島　義彦（72）
瑞　単	広島県	元　広島市安佐南消防団分団長	折手　春三（82）	瑞　単	広島県	元　江田島市消防団分団長	向井　力治（73）
瑞　単	広島県	元　広島市南消防団分団長	木村　仁（73）	瑞　単	山口県	元　萩市消防団分団長	阿武　美昭（76）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）
瑞　単	山　口　県	元　美祢市消防団 分団長	伊勢野 新次（78）	瑞　単	山　口　県	元　小野田市消防団 分団長	松本 浩（73）
瑞　単	山　口　県	元　徳地町消防団 分団長	伊藤 毅（76）	瑞　単	山　口　県	元　久賀町消防団 分団長	山平 榮一（86）
瑞　単	山　口　県	元　光市消防団 副団長	上田 武彦（70）	瑞　単	山　口　県	元　岩国市消防団 副団長	吉本 武（72）
瑞　単	山　口　県	元　田万川町消防団 分団長	梅津 芳生（76）	瑞　双	徳　島　県	元　板野東部消防組合消防団 団長	齋藤 明善（70）
瑞　単	山　口　県	元　東和町消防団 分団長	大濱 進（86）	瑞　双	徳　島　県	元　神山町消防団 団長	吉田 一彦（74）
瑞　単	山　口　県	元　柳井市消防団 副団長	國行 正治（78）	瑞　単	徳　島　県	元　徳島市消防団 分団長	泉 徹雄（64）
瑞　単	山　口　県	元　下松市消防団 分団長	持佛 征男（71）	瑞　単	徳　島　県	元　神山町消防団 副団長	武市 佐市（66）
瑞　単	山　口　県	元　阿武町消防団 分団長	末岡 肇（73）	瑞　単	徳　島　県	元　徳島市消防団 団長	武田 孝次（65）
瑞　単	山　口　県	元　平生町消防団 副団長	時政 和男（74）	瑞　単	徳　島　県	元　由岐町消防団 副団長	武田 満（74）
瑞　単	山　口　県	元　宇部市消防団楠消防団 分団長	縄田 俊治（70）	瑞　単	徳　島　県	元　牟岐町消防団 副団長	平間 巽（76）
瑞　単	山　口　県	元　岩国市消防団 副団長	原田 隆明（70）	瑞　単	徳　島　県	元　阿南市消防団 副団長	町田 輝美（66）
瑞　単	山　口　県	元　光市消防団 団長	原田 秀明（74）	瑞　単	徳　島　県	元　山川町消防団 団長	豆成 勳（66）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）
瑞　単	香　川　県	元　直島町消防団 団長	生駒 隆（67）	瑞　双	愛　媛　県	元　吉海町消防団 団長	上川 正広（74）
瑞　単	香　川　県	元　三木町消防団 副分団長	岩部 勤（79）	瑞　双	愛　媛　県	元　四国中央市消防団 副団長	篠原 修（80）
瑞　単	香　川　県	元　綾上町消防団 分団長	植田 正（81）	瑞　単	愛　媛　県	元　広田村消防団 分団長	上野 博壽（79）
瑞　単	香　川　県	元　香南町消防団 分団長	太田 辰雄（79）	瑞　単	愛　媛　県	元　波方町消防団 副団長	宇野 和壽（64）
瑞　単	香　川　県	元　まんのう町消防団 団長	神余 義久（71）	瑞　単	愛　媛　県	元　大洲市消防団 副団長	大田 正男（65）
瑞　単	香　川　県	元　観音寺市消防団 副団長	合田 美智夫（74）	瑞　単	愛　媛　県	元　松山市消防団 副団長	仙波 幸三（71）
瑞　単	香　川　県	元　琴平町消防団 副団長	白川 銈藏（71）	瑞　単	愛　媛　県	元　新居浜市消防団 分団長	中田 勇生（72）
瑞　単	香　川　県	元　庵治町消防団 副団長	長町 勤（78）	瑞　単	愛　媛　県	元　今治市消防団 副団長	西原 忠男（64）
瑞　単	香　川　県	元　庵治町消防団 副団長	濱口 末雄（80）	瑞　単	愛　媛　県	元　新居浜市消防団 副団長	福田 健三（70）
瑞　単	香　川　県	元　多度津町消防団 分団長	山根 一義（71）	瑞　単	愛　媛　県	元　松山市消防団 副団長	松浦 忠夫（67）
瑞　単	香　川　県	元　牟礼町消防団 副分団長	吉田 進（84）	瑞　単	愛　媛　県	元　松山市消防団 分団長	光田 洋一郎（72）
瑞　単	香　川　県	元　土庄町消防団 副団長	余島 邦昭（69）	瑞　単	愛　媛　県	元　松山市消防団 分団長	横田 祐享（75）

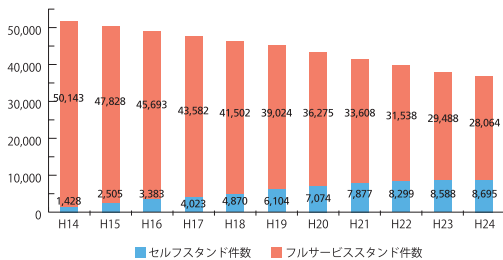
賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）
瑞単	愛媛県	元 西条市消防団 団長	渡邊 隆義（64）	瑞単	福岡県	元 北九州市八幡西消防団 分団長	井上 静一（73）
瑞単	高知県	元 中村市消防団 分団長	浦田 傳（84）	瑞単	福岡県	元 福岡市南消防団 分団長	植田 功（71）
瑞単	高知県	元 本山町消防団 団長	大石 泰章（72）	瑞単	福岡県	元 北九州市小倉南消防団 分団長	小田 一弘（77）
瑞単	高知県	元 四万十市消防団 副団長	岡﨑 英右（69）	瑞単	福岡県	元 北九州市洞海湾消防団 分団長	川崎 善生（68）
瑞単	高知県	元 高幡消防組合須崎消防団 分団長	堅田 純生（70）	瑞単	福岡県	元 若宮町消防団 分団長	倉富 俊和（73）
瑞単	高知県	元 鏡村消防団 団長	神戸 義彦（77）	瑞単	福岡県	元 大牟田市消防団 分団長	古賀 正博（73）
瑞単	高知県	元 高幡消防組合四万十消防団 分団長	田邊 猛（69）	瑞単	福岡県	元 勝山町消防団 副団長	小森 不二男（79）
瑞単	高知県	元 宿毛市消防団 副団長	西岡 洋二（69）	瑞単	福岡県	元 水巻町消防団 分団長	坂口 健治（67）
瑞単	高知県	元 仁淀川町消防団 副団長	西森 満生（71）	瑞単	福岡県	元 豊前市消防団 副団長	佐藤 吉昶（75）
瑞単	高知県	元 南国市消防団 副団長	濱田 伸夫（73）	瑞単	福岡県	元 山田市消防団 分団長	武田 榮輔（77）
瑞小	福岡県	元 飯塚地区消防組合 消防正監	白土 勝廣（70）	瑞単	福岡県	元 北九州市門司消防団 分団長	田中 豊四郎（72）
瑞小	福岡県	元 福岡市 消防正監	田中 浩（70）	瑞単	福岡県	元 北九州市八幡東消防団 分団長	堤 弘勝（76）
瑞単	福岡県	元 稲築町消防団 分団長	中嶋 正光（79）	瑞単	佐賀県	元 佐賀市消防団 分団長	久富 良明（67）
瑞単	福岡県	元 福岡市中央消防団 団長	中園 博文（67）	瑞単	佐賀県	元 伊万里市消防団 分団長	山浦 好雄（66）
瑞単	福岡県	元 方城町消防団 副団長	仲村 六助（79）	瑞双	長崎県	元 長崎市消防団 副団長	畠道 洋治（71）
瑞単	福岡県	元 飯塚市消防団 分団長	野見山 巖（71）	瑞単	長崎県	元 布津町消防団 団長	石橋 博（66）
瑞単	福岡県	元 田川市消防団 分団長	原井 昇一（77）	瑞単	長崎県	元 奈良尾町消防団 副分団長	岩本 稔（81）
瑞単	福岡県	元 桂川町消防団 分団長	丸山 國男（78）	瑞単	長崎県	元 壱岐市消防団 団長	草合 祐三（67）
瑞単	福岡県	元 椎田町消防団 副団長	宮本 正義（76）	瑞単	長崎県	元 佐世保市消防団 分団長	佐野 貢（77）
瑞単	福岡県	元 久留米市消防団 分団長	吉岡 正（72）	瑞単	長崎県	元 崎戸町消防団 分団長	立道 常一（82）
瑞双	佐賀県	元 武雄市消防団 団長	大坪 正和（66）	瑞単	長崎県	元 松浦市消防団 分団長	田中 幸一（75）
瑞単	佐賀県	元 佐賀市大和町消防団 団長	谷口 安行（67）	瑞単	長崎県	元 佐世保市消防団 分団長	豊里 邦則（81）
瑞単	佐賀県	元 唐津市消防団 分団長	辻 宗治（68）	瑞単	長崎県	元 長崎市消防団 分団長	鳥越 春實（78）
瑞単	佐賀県	元 肥前町消防団 団長	中江 定吉（72）	瑞単	長崎県	元 大村市消防団 分団長	福嶋 治男（80）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　名（年齢）
瑞　単	長崎県	元　五島市消防団 副団長	舛本　正勝（69）
瑞　単	長崎県	元　長崎市消防団 分団長	松下　不二夫（79）
瑞　単	長崎県	元　長崎市消防団 副団長	向井　進（72）
瑞　単	長崎県	元　美津島町消防団 副団長	山田　啓治（70）
瑞　単	長崎県	元　平戸市消防団 分団長	山本　岩利（75）
瑞　単	長崎県	元　雲仙市消防団 副団長	渡部　義明（67）
瑞　双	熊本県	元　山江村消防団 団長	入口　護（70）
瑞　双	熊本県	元　南小国町消防団 団長	後藤　昭雄（71）
瑞　単	熊本県	元　熊本市消防団 分団長	田島　勝美（74）
瑞　単	熊本県	元　相良村消防団 団長	豊永　守伸（64）
瑞　単	熊本県	元　熊本市消防団 分団長	長濱　健（74）
瑞　単	熊本県	元　鹿本町消防団 団長	福島　洋四郎（64）
瑞　単	熊本県	元　山鹿市消防団 団長	宮崎　田美男（64）
瑞　単	熊本県	元　河浦町消防団 団長	山越　強（64）
瑞　単	熊本県	元　河浦町消防団 団長	山﨑　輝明（64）
瑞　単	熊本県	元　熊本市消防団 副団長	渡辺　澄博（64）
瑞　双	大分県	元　別府市消防団 団長	宗　圀洋（71）
瑞　双	大分県	元　佐伯市米水津消防団 団長	渡邉　隆道（72）
瑞　単	大分県	元　日田市天瀬消防団 団長	安達　豊彦（66）
瑞　単	大分県	元　豊後高田市消防団 分団長	安部　一二三（78）
瑞　単	大分県	元　宇佐市消防団 分団長	恵良　文一（80）
瑞　単	大分県	元　大分市消防団 分団長	春野　福夫（84）
瑞　単	大分県	元　臼杵市臼杵消防団 分団長	匹田　俊也（72）
瑞　単	大分県	元　杵築市消防団 副団長	牧野　三男（69）
瑞　単	大分県	元　中津市消防団 副団長	吉田　伴満（71）
瑞　小	宮崎県	元　宮崎市 消防正監	森　紘喜（70）
瑞　単	宮崎県	元　高千穂町消防団 副団長	工藤　智規（66）
瑞　単	宮崎県	元　美郷町消防団 副団長	黒木　一広（62）
瑞　単	宮崎県	元　日南市消防団 分団長	山口　宗則（64）
瑞　単	宮崎県	元　都城市都城消防団 分団長	吉行　博明（66）
瑞　単	鹿児島県	元　蒲生町消防団 副分団長	内村　勇（79）
瑞　単	鹿児島県	元　鹿児島市消防団 副分団長	海江田　幸蔵（78）
瑞　単	鹿児島県	元　吹上町消防団 分団長	切口　勇（79）
瑞　単	鹿児島県	元　名瀬市消防団 分団長	平　朝雄（79）
瑞　単	鹿児島県	元　阿久根市消防団 副団長	橘　房昭（73）
瑞　単	鹿児島県	元　下甑村消防団 部長	地蔵　一利（77）
瑞　単	鹿児島県	元　鹿児島市消防団 分団長	中薗　學（78）
瑞　単	鹿児島県	元　知覧町消防団 分団長	松山　博武（77）
瑞　単	鹿児島県	元　田代町消防団 副団長	宮前　正（72）
瑞　単	鹿児島県	元　東串良町消防団 副団長	村吉　一夫（84）
瑞　単	鹿児島県	元　喜界町消防団 団長	森　三磨（74）
瑞　単	沖縄県	元　うるま市消防団 分団長	赤嶺　俊光（66）
旭　双	神奈川県	元　(一社)日本消防ホース工業会 会長	飯田　時章（78）
旭　双	大分県	現　(一財)大分県消防設備安全協会 理事長	成良　文雄（81）
旭　双	愛知県	現　愛知県婦人消防クラブ連絡協議会 会長	永坂　幸子（70）

セルフスタンドにおける安全な給油について

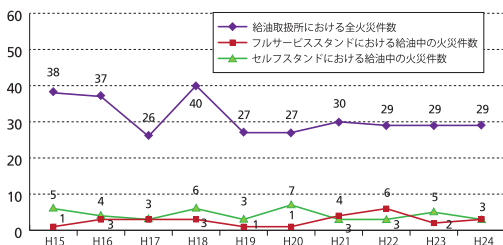
総務省　消防庁　危険物保安室

セルフスタンドの現状

ドライバーが自ら給油を行うセルフサービス方式の給油取扱所（セルフスタンド）は平成10年４月から認められた比較的新しいガソリンスタンドの形態です。それまではドライバーが自ら給油を行うことは対応する安全対策がとられていないため認められていませんでしたが、セルフスタンドについて検討が行われた結果、一定の安全対策を講ずれば従来のガソリンスタンド（フルサービススタンド）と同等の安全性を確保することができることが確認され、セルフスタンドが認められることとなりました。

近年、ガソリンスタンドの件数は減少傾向にありますが、これとは対照にセルフスタンドは増加しており、平成24年３月末現在では、8,500件を超えています。

セルフスタンドの安全対策の改正経緯

セルフスタンドにおいて給油中に自動車の給油口付近で静電気が原因と考えられる火災が発生したことを受け、「火気厳禁」「給油中エンジン停止」「ガソリンの容器への注入禁止」など保安上必要な事項を記載する注意書きに「静電気対策に係る事項」を加えるよう、平成13年に各消防本部に通知しました。

また、セルフスタンドの火災発生割合がフルサービススタンドに比べると高いことから、平成19年には危険物の規制に関する規則（昭和34年総理府令第55号）を改正し、給油ノズルは、静電気を有効に除去することができる構造とすることや給油中に吹きこぼれたガソリンが顧客に飛散しない措置を講ずること等が規定され、セルフスタンドの設備に関する安全対策を強化しました。

給油取扱所１万施設あたりの給油中における火災事故発生割合

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年
セルフスタンド	24.0	11.8	7.5	12.3	4.9	9.9	3.8	3.6	5.8	3.5
フルサービススタンド	0.2	0.7	0.7	0.7	0.3	0.3	1.2	1.9	0.7	1.1

給油中の主な注意事項

セルフスタンドでドライバーが給油する際には、次の点に十分ご注意ください。

- 静電気除去シートなどにより静電気を十分除去すること。
- 車に給油する油種を十分に確認すること。
- ライター、たばこ等の火気は使用しないこと。
- ガソリンの容器への小分けは行わないこと。
- 自動車又は原動機付自転車以外（例：水上バイク等）への給油は行わないこと。

その他、計量機に表示されている使用方法、注意事項を必ずお読みください。またご不明な点があれば、計量機付近に設置されているインターホンでセルフスタンド従業員へお問い合わせください。

その他

セルフスタンドにおける給油に関しては、下記のホームページをご参考に、安全に給油してください。

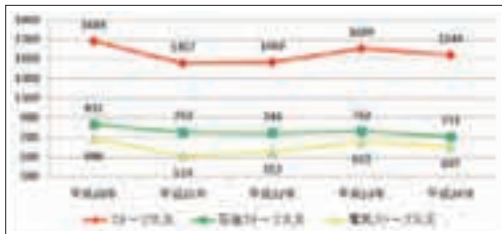
総務省消防庁：セルフ給油に関する注意事項
http://www.fdma.go.jp/html/new/self_atten.pdf
総務省消防庁：ガソリン等危険物の事故防止について
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/gasoline/keihatu.html
石油連盟：セルフ給油での油吹きこぼれに関する注意事項
http://www.paj.gr.jp/paj_info/topics/2006/12/19-000282.html

問合わせ先
消防庁危険物保安室危険物施設係　中嶋・各務
TEL：03-5253-7524

石油ストーブなどの安全な取扱いについて

総務省　消防庁　予防課

本格的な冬の到来に備え、石油ストーブなどの暖房器具の手入れは万全でしょうか。

平成24年中におけるストーブによる火災件数をみると、全国で1,544件発生し、主な内訳は、石油ストーブによるもの711件、電気ストーブによるもの607件となっています。

ストーブによる火災の主な出火原因をみると、可燃物の接触・落下、引火・ふく射、使用方法の誤り、消し忘れ、過熱、使用中の給油等が原因となっています。

寒い時期を迎えるにあたり、これからストーブなどの暖房器具を使用する機会が多くなります。火災を発生させないよう、特に次の点に注意するよう心がけましょう。

１．使用にあたっての注意事項

⑴　カーテン等がストーブに接触しないように、離して使用すること。

⑵　ストーブの近くに紙、衣類など燃えやすいものを置かないこと。

⑶　ストーブの周囲や上方に洗濯物を干さないこと。

⑷　ストーブの近くでヘアスプレー等を使用しない。また、近くに放置しないこと。

２．使用方法

⑴　取扱説明書をよく読んで、正しい方法で使用すること。

⑵　石油ストーブに灯油を給油するときは、必ず火を消してから行うこと。

⑶　カートリッジタンク式のものは、給油後、タンクのふたを確実に締めること。

３．点火及び消火の確認

⑴　点火後は、正常に燃焼していることを確認すること。

⑵　外出等の際には、必ず完全に消火していることを確認すること。

４．点検・整備

暖房シーズン前には、十分な点検を行い、故障している場合は、販売店等に修理を依頼すること。

５．危険物の保管

⑴　灯油用の容器は金属製のもの、又はポリエチレン製で安全性に係る推奨マーク若しくは認定証が貼付されているものを使用するとともに、必ず栓をしっかり締めて密閉すること。

⑵　保管場所は火気を使う場所から遠ざけるとともに、直射日光を避けた冷暗所とすること。

⑶　地震時に容器が転倒したり、落下物によって容器が破損したりしないようにすること。

６．機器の安全性の向上

平成21年以降、消費生活用製品安全法により、石油燃焼機器が特定製品に指定され、国の定めた技術基準に適合した旨のPSCマークを表示した上で販売することが義務づけられました。

石油ストーブに求められる主な技術基準は次の３点です。

○カートリッジタンクの口金の安全強化
　確実に締めたことが音、目視又は感触で確認できること。

○給油時自動消火
　カートリッジタンクを引き抜くと自動的に消火すること。

○不完全燃焼防止強化
　使用中に一酸化炭素の濃度が基準以上となった場合、自動的に消火すること。

問合わせ先
消防庁予防課　古賀
TEL：03-5253-7523

うちの 名物団員

高知県

安芸市消防団　中央分団　部長

西岡　憲幸

　１級建築士の免許を持ち個人設計事務所を経営する異色の団員で、休日には息子の所属する少年野球チーム「安芸ヤングタイガース」のコーチを務めています。団員歴は25年目で分団の中心的な存在で分団長の信任も厚い。

　見てのとおりの豪快な性格で、土佐のお酒が大好き！豪放磊落、時にはめを外しすぎるところが典型的な土佐の「いごっそう」なオンちゃんです。

愛知県

新城市消防団　分団長

齋藤　貴之

「Mr.操法」こと齋藤分団長は、青春を消防操法に捧げてきました。強面な風貌は仏壇塗装職人の性なのかもしれません。（笑）

　しかし、お酒が入ると愛嬌と人柄の良さが一気に際立ちます。今年の消防操法

大会は見事県大会優勝に導きました。寡黙ですがしっかりと結果を出す男でもあります。あとは独身生活にオサラバすることだけです。（笑）

千葉県

市原市消防団　加茂支団第２分団　団員

平田　長保

市原市から加茂地区の平田長保さんを紹介します。平田さんは、同地区の氏神である高瀧神社の神職をしていて、自身で十五代目にあたります。神職は日々地域の安全を神に祈るのが務めでもあるので日々、地域の警備にあたる消防団の活動にも通ずるものがあるのではないでしょうか。また、東日本大震災復興の為に旭市や東北に赴き復興支援活動にも尽力されています。

青森県

平川市消防団　副団長

小山内　勝廣

青森県の平川市消防団、小山内勝廣副団長を紹介します。ソフトボール審判の資格を持つ彼は、消防団活動のかたわら地域の審判員として、かれこれ32年活動してまいりました。普段は明るく温厚な人柄ですが、いざ試合となると冷静かつ毅然としたジャッジで皆に頼られております。そのジャッジは消防団活動でも生かされており、消防団員が「アウト」なことをしないよう、注意深く見守り、指導しており、我が消防団にかかせない人材です。

茨城県

北茨城市消防団　副分団長

金田　三千治

金田副分団長は、消防団歴35年、消防団の行事・災害時には、自営の設備会社から約30キロ離れた地元分団までトライクにまたがり駆けつけることがたびたびあります。山間部の道路は自動車より早く到着することができるそうです。

休みの日は、家族（特に奥様を後ろに乗せて）や仲間とツーリングを楽しみ、最近では、新潟・二本松・釜石などに。ストレス時代の団員のみなさま、ぜひご一緒にいかがでしょうか。

消防団の広場

青森県「地域を守る消防団を目指し」

平川市消防団
団長

相馬　清孝

平川市消防団は平成18年１月１日の市町村大合併を機に平賀町、尾上町、碇ヶ関村の３つの地区の消防団がひとつに統合され誕生しました。

その後、平成21年に構成を見直し、現在は６方面隊20分団で活動しております。

団長を拝命し５年となりますが、当初は３つの地区の連携、統一性などに苦慮いたしましたが、それぞれの特色を残しつつ、ようやく１つの消防団としてまとまりを見せてきているのではないかと感じております。

主な活動としては、出初式、観閲式や放水競技大会があります。その他、機械器具訓練や放水訓練については、地元消防署の指導を仰ぎながら定期的に開催しており、初任団員を中心に機械操作について指導を受けております。

特に礼式訓練には力をいれており、年に１、２度は消防学校から講師を招き幹部団員などを対象に研修会を実施し、その訓練の成果は目に見える形で表れているところです。

また、当消防団では女性消防団員の活動も盛んであります。女性団員数は県内でも屈指の人数を誇っており、会議、式典に華を添えることはもちろんのこと、放水競技大会などがあれば男子顔負けのホースさばきを見せ上位入賞を果たすなど、心強いかぎりであります。

さて、世界的にも大規模災害が頻発する中、９月には当市でもこれまで類を見ない規模の水害が発生しました。

被災者の救助、家屋浸水の食い止めなど全団員が一致団結して活動した結果、ひとりの怪我人も出すこともなく乗り切ることが出来たことに、あらためて我が消防団の頼もしさを感じました。

今後の大規模災害には予断を許さない状況になってきております。地域の安心・安全を守るべく、消防団が一丸となり、さらには個々の団員がそれぞれの地域を守れる力と知識を持てるよう、日々訓練を続ける所存であります。

平成25年度　全国統一防火標語

「消すまでは　心の警報　ONのまま」

1月の日本消防協会関係行事

1月14日（火）～17日（金）	第40回消防団幹部特別研修
1月20日（月）～28日（火）	消防団長等幹部海外事情調査（トルコ・ギリシャ・イタリア）
1月24日（金）	全国消防殉職者遺族会理事会

編　集　後　記

急に寒くなってまいりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。この文章を書いている今の私は、少々時差ボケの残る状態です。というのも、今月の１日から８日まで消防個人年金海外視察でイタリアへ行ってきたからです。イタリアでは、内務省の消防救助・民防局国家消防指令センターの視察をさせていただきました。イタリアも日本と同じく、常備消防よりも非常備消防の人員が多いそうです。

さて、毎年恒例となっております、今年の世相を表す「今年の漢字」が先日発表されました。今年は「輪」でした。東京オリンピック招致決定が一番のポイントとなったようですが、その他にも、楽天日本一からの「希望の輪」や、サッカー日本代表ユニホームのデザインとなった「円陣の輪」、日本各地で発生した各種災害発生後の「支援の輪」なども「今年の漢字」の決めてとなったようです。また、私たち消防関係者にとっての「輪」は、阪神・淡路大震災以降、常備消防と非常備消防が両輪となり、自衛隊、警察、自主防災組織等と連携し、災害発生時に「大きな輪」となり即時に対応するというところに繋がっていると思います。さらに、つい先日「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立しました。この法律で、地域防災の要である消防団や自主防災組織等の個が強化され、自主防災体制の輪がこの先ますます強化していくことは、まさに安心安全な街づくりの糧となり、住民の皆さんにとって大変に心強いことだと思います。　（M・K）

購読募集

購読を希望される方は、㈶日本消防協会へお問い合わせください。

※　年間購読料（送料込）　2,388円

（問合せ先）　総務部企画担当　03－3503－1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十六巻第十二号
平成二十五年十二月五日印刷
平成二十五年十二月十日発行
編集人　生嶋　文昭
発行所　㈶日本消防協会
東京都港区虎ノ門二―九―十六
電話　〇三（3503）一四八一（代）
印刷所　日本印刷株式会社
東京都文京区湯島三―二十―十二
電話（3833）六九七一（代）

R100

平成二十五年十二月十日発行　毎月一回十日発行
日本消防
第六十六巻第十二号